男女貞潔之理想　會長　島田三郎

公娼廢止之主張　副會長　安部磯雄

5 — 335

廓清

明治四十四年八月一日創刊
大正七年十一月一日第三種郵便物認可
(大正八年十一月十日印刷)
(大正八年十一月十日發行)
(毎月一回十日發行)

第九卷第十一號

東京　廓清會本部發行

ライオン水齒磨

口中の爽かさ！

氣分の新しさ！



○ライオン水齒磨

中瓶

實物大！



新時代の芳香含嗽料

ライオン水齒磨

用法 この水齒磨の二三滴を清（或は微温湯）の入つたコップに落し、がらがらご含嗽をすれば、齒の一つ一つ、口中の隅隅まで全く清淨になり、何とも申しやうもない優しい芳香が口中に漾つて、それはそれは清清してさわやかな御氣分になります。食後・寢前・外出歸り・接客の時には是非お用ゐあそばせ。なほ、含嗽と同時に齒刷子をお使ひになれば一層衛生的效果が著しう御座います。

ライオ 齒磨本舗 株式會社 小林商店

支店

廓清
THE PURITY

第九巻第十一號

大正八年十一月



廓清時言

勞働問題と廓清會則

吾人は本年の初頭に於て、今日の大問題は國際聯盟より大なるはなく必要なるはなしと論じたりしが、幸にして此大理想は着々實現の歩武を進めつゝありて、人類悠久の和平は解決の緒に就きたり。

然るに近時勞働問題疾風迅雷の如く殺到して、今や國際聯盟の問題よりも緊急切實なる國家の大問題となり來れり。吾人は平素公娼てふ奴隷の解放を叫びつゝある者、賃金奴隷の解放も亦、我徒宿昔の主張たらざる可からず。我等は唯人格主義の上に立ち、妻を夫より解放し、子を親より解放し、正義と愛に從つて家庭と社會とを幸福ならしめんことを期す。故に現下勞働者の横暴なる資本家に對する猛然たる反抗の狀は、痛快淋漓欣躍せざる能はざる底のものたらずんば非ず。されど退いて彼等の爲す處を視るに、觀喜の夢短くして却つて憂懼の情に堪えざるものあらんとす。蓋し資本跋扈の時代去つて勞働者横暴の時代來らんとするなきかとの杞憂之也。

惟ふに勞働者の現狀は一言以て之を掩へば、權利に目覺めて義務に盲なるに似たり。斯の如くんば檻中の猛虎を野に放つが如く、弱の肉は强の食とならん。國家の中堅たり文化の興亡を握る有識無產階級滅亡の聲既に聞ゆ。彼等が賃金の値上を求むるは可なり、然れども彼等はそを酒色に消盡しつゝあるに非ずや。彼等が時間の短縮を求むるは可なり、然れども彼等はそを淫逸の時間に代へつゝあるに非ずや。斯の如くんば資本家の奴隷を驅つて肉慾の奴隷に墮せしむるのみ何の勞働運動ぞや。

嗚呼彼等を賃金奴隷より解放すると共に、肉慾の奴隷より解放する導者

はなき乎、嗚呼彼等に社會共同の眞理を說き人生の理想を鼓吹する義人はなき乎。吾人は用忙男女道德の向上の爲めに餘裕なしと雖も、起つて彼等の爲めに一點の光明を點ぜんとす。吾人が這次別項記載の如く一部會則の改正をなしたるもの、蓋し之が爲也。

內務大臣の時代錯誤

尊敬する床次竹二郎氏の內務大臣就任は、吾人をして種々なる期待をなさしめたるが、近來其爲す處毫も肯綮に觸れず、漸次國民の高尙なる部分の信賴を裏切りつゝあるは遺憾也。近來の社會の一大現象はいふ迄もなく生活難の問題也。茲に於てか內務省は、盛んに節米策を講じ、遂に馬鈴薯飯の宣傳をさへ試むるに至れり。曩に內務大臣は剛健なる國民精神の涵養を切感し國民保健の策を講じ、青年團を獎勵し遂に浪花節語りを會同して風敎を刷新せんとす。最近亦內務大臣は勞働問題の勃發に對して、之が協調緩和を策して、遂に俠客連を招致し、其連衡によりて勞働者の反撥を阻止せしめんとす。內相は自ら之を招致したるに非ずといふと雖も、之れ畢竟官僚の常套手段にして、國民を信ぜしむるに足らざる也。

食糧問題解決の道は、禁酒令を敷きて酒類の釀造を禁絕するより上乘賢明なるは非ず。國民保健風紀刷新の道は公娼廢止の一擧より凱切有效なるは非ず。馬鈴薯飯と浪花節語りと夫れ何するものぞ。勞働問題の解決に俠客連の招致に至りては憤飯の極也。誰が信ぜん講談本中の俠客が大正の昭代に活躍し來らんとは。內務大臣の夢幻劇、之をしも時代錯誤と云はずして又何をか云はん。

文部大臣の矛盾撞着

一國文敎の長たる身を以て、全國府縣會議員の選擧に際し、醜業經營者を推薦し其人格を保證して物議を醸したる中橋德五郎氏は、這般高等女學校長會議の席上、女子敎育方針に就て大要左の如き演說をなしたり。

女子の務は年を逐うて重きを加へてまゐりまして、今日では家庭に於てばかりでなく實際の社會に立つて働くべき場合が益々增加する有樣であります、從て女子の敎育に對して社會から種々の要求も現れて來るやうな次第であります、元來敎育は社會に順應して改善を圖らなければならんのでありまして今後は一層學校敎育を社會の實生活に密接ならしめ日常の實務を巧に處理する能力を養ふことに注意すると共に國體の精華、憲政の精神をよく會得させ現代思想に就ても適當な理解を與へることが極めて必要と信じます、之を要するに今日の時勢は意思の鞏固な、而かも常識の圓滿に發達した溫良貞淑の婦人を養成して日常生活の改善を圖り子女の敎育に努めると共に、內助の本分を完うさせることが最も必要であると存じます。

敢て問ふ中橋文部大臣は女子に政談演說を禁じ、傍聽をすら許さずして、如何にして憲政の精神を會得せしめんとする乎。公娼の存在を認め藝妓の橫行を許し、男子の破操を公認して如何にして婦人に貞淑を求めんとする乎。時代は最早斯かる無責任なる放言を許さず、勞働問題の九天直下的大發展をなしつゝある時、婦人は胡爲ぞ起たざる。婦人問題の進步の遲々たるは、斷じて我民族の幸福に非ざる也。(江南)



移民問題と我風俗

廓清會長　島田三郎

□力卽ち膨張方針の謬想

今更云ふを要せぬが、日本の民族は何れかの形で世界に膨脹すべき運命を有してゐる。此運命を如何に開導すべきかは識者の任務であり實行家の努力を要する重大問題である。我國は年々六十萬づゝの人口が增加する。此點は戰前の獨逸の形勢に類してゐる。獨逸は力を以て前途を開拓すべし、力卽ち膨脹方針なりと考へ、其の結果他國と衝突して一敗地に塗るゝに至つた。

日本にも獨逸崇拜者があり。力を以て解決せんとする者がある。乍併獨逸の緻密なる正確なる勢力ある種々の長所を以てして尚彼の如き失敗を見たのは、日本の覺醒すべき目前の大敎訓である。然るに日本には一種の誤れる信仰があり、其一部の實現が世界をして日本人民を誤解せしむる原因となつた。我等は之を思ふ每に歎息を禁じ得ないのである。曰く侵略國の日本、曰く第二の獨逸たる日本と。是等の語は無遠慮に歐米の新聞に散見する。流石に責任ある政治家は國際交誼上斯く明言する者は少いが、深き心の奧底には同樣の疑念を貯へて居るのがあつて、之は實に日本の一大損失である。青年の國なる米國は、歐洲諸國の政治家の如く婉曲に論斷せぬから、歐洲の公人は其疑點を時として言論の間に僅に發露するが、米國の上院に於ける言論は更に最も無遠慮に發表する。

歐洲の戰爭闌にして勝敗未決の秋に當り、一兵も多く佛白の方面に出陣せしめたい其の最中に、西比利亞出兵の事起るや、英米等の諸國が西比利亞方面を全部日本に委任せずして諸國の兵を日本と共に且同時に出し、更に日本は米國と同數の兵を出して欲しいといふたのは何であるか、其裏面には一手に日本に東洋方面を委ぬるは、他日の虞れがあるとの疑念を挾んだと解すべき理由がある。不言不語の裡。日本の眞意を疑ふ狀が含まれて居ると想はれる。況んや故意に日本を排斥せんとする外國の論客、就中排日を一種の主張とする米國の論者又は濠洲方面の政治家は、其色彩が一層濃厚に見えた。

日本が時代の大勢を觀察して、純粋に世界に膨脹すべき人類的大理想を實現すべきは是れ大國民たるべき日本の抱負てなければならぬ。今の秋に方つて斷然世界の誤解を一掃し何れの處にも日本民族を歡迎せしむべき新紀元を開かなければならぬ。是は元より難事であるが、力を以てすることが誤まれる方針たること明なりし以上、此の反對に出づるは大策てあり長計てあり且つ合理の方針てある。是を單に政治家に要求するのみてはない。社會的人類的の問題として國民の猛省を促さゞるを得ないのである。約言すれば日本人民は世界の文化を高める要素を有つてゐると自信するだけの性質を必要とする。之れには種々の條件もあるが、先以て文化を阻害せぬだけの覺悟が痛切になくてはならぬ。下に揭ぐる新嘉坡方面の日本民族の體裁は、果して世界の進歩を毀傷せぬ文化を阻害せぬ民族として、世界に認めらる可きであらうか。吾人は他の評論よりも此の戰慄すべき事實を提供して、之に對する切實なる廓淸を此方面に促すのてある。事實は一の修飾を加へず人を欺かざるの報告てあるから、敢てその一讀を要望する次第てある。

□南洋に於ける我が醜業婦

以下に記す處は、即ち新嘉坡在住の日本基督敎會牧師梅森豪勇氏が最近我等に告げられたる談話の筆記てある。

現在マレー半島に在留する日本人の總數は、正確に屆出てゐる數字は最近七千六百七十三人て、之を男女に區別すると男が四千五百七十三人て女が三千百人てある。女の內の直接娼妓と認めらるゝ者が千三百九十九人て、西洋人の妾と云つても主にマレー人印度人、ハフカス、ユダヤ人等の妾が三百十人て、其他に無屆の醜業婦が概算三百人を算するてあらうから、結局醜業婦の總數は二千人と見てよからう。

更に之を變つた方面から調べて見ると、商店の數が千二百二十て、使用人の數は三千百四十七人てある。奥さんの數は七百五人子供の數は二百三十人てある。七百五人の家族持の間に二百三十人の子供は少しく率が少いのであるが、之は七百五人の奥さん中四分の三迄は醜業婦だつた爲めて、從つて子供の數が少いのである。嘗て自分の日曜學校に來たもので十五にして姙娠四ヶ月になつてゐたのがあつた。以て如何に早熟であるかを知ることが出來やう。それから或る日曜學校の子供が面白半分ダイアの指輪を指してゐるのを見つけ、どうしたのだと聞いたら伯母さんから貰つたのだ、伯母さんは五つも六つも持つてゐるんだもの、私も學校を卒業したら伯母さんの様になるといふ。伯母さんといふのは醜業婦なのである。

女郎屋の數は全島で二百八十五軒てあるが、新嘉坡だけて云へば四十九軒の女郎屋に、二百三人の娼妓が居る、四十九軒の女郎屋は皆女主人にして娼妓を兼ねて居る。明になつてゐる妾が三十五人、宿屋の女主人が七人、男主人が十九人。其七軒の女主人はいふ迄もなく遊廓類似のホテルで、女が十八人雇はれてゐる。旅館も矢釜しいから氷屋をやつてゐる者もある。印度人やマレー人を對手の女主人が八人、使はれてゐるものが三人居る。料理店は女主十一軒男主十軒、藝妓が

四十二人の届出であるが、七十人は居る。其外怪しいのが十五人は居やう。また、外國人對手にマッサージの看板を掲げてやはり醜業を營む者五六軒はあらう。此地に於ける男の總數千六百四十四人で女の總數は八百五十人である。此内男の戸主六百五人に對して女の戸主百五十人で、それには多く男妾がついてゐる。それに使はれてゐる女が三百二十九人で、男が九百六十一人である。八百五十人中奥さんは二百八十一人で、大部分は醜業婦である。從つて日本の女を見れば、それは必ず醜業婦だと思はれてゐる。

□南洋に於ける日本男子の頽廢

日本の教育ある男子は何の位ゐるかといふと、高等教育を受けた者が二百人。それが悉く遊廓通ひをして、遊廓から毎月百六十弗乃至二百弗取られてゐる。最近支那人のボイコットがあり、日本人は悉く働きを止めた時、遊廓も店を閉めた。警察から出てはならぬと達しがあつたが、自動車で迎へに行き、男子の數だけの娼妓は毎日社宅で寢起して、遊廓は空であつた。風紀の頽廢如何に甚しきかを察するに餘りがある。

私の親しい友人に、其姉さんが親子で行衛不明になつたのがある。それがどうも行先は南洋らしく思はれるので、其友人は南洋に行かうとしたが行けない内に自分が赴任することゝなつたを幸ひ、其搜索を依頼された。それで自分は非常な苦心を以て尋ねた結果やつと分つたのであるが、その人は親子で醜業を營んで居つた。南洋は全く醜業婦の天地である。新嘉坡でなくともどんな處にも女が居る。それが皆醜業婦である。某會社の副支配人の奥さんが私に泌み〳〵語られた。私が若し神戸に殘つたら大變だつた。あんなに皆有頂天で遊んでゐるのだもの、實に危險です。私は同僚の赴任せらるゝ毎に、必ず奥さんに一緒に來られるやう手紙で勸めてゐます。との事であつた。全く夫婦別居は大禁物である。或汽船會社に最も眞面目な人があつた。宿舍に歸ると何の部屋にも毎日必ず怪しい女を引入れて巫山戲てゐた。是等の人にとつては氏の眞面目が煙たいので、或日の事、留守の間に女を此の部屋に押込んで居た。氏が知らずに歸つて見ると白粉の女は平氣で氏のベッドに寢て居たのである。氏が歸らせやうとしても歸らぬ。仕方なしに外から鍵をかけて外に泊まつて寢たといふ事實もある。

南洋に來る者必ずしも始めより大酒呑ではない。大道樂者とは限らない。始めは威勢のいゝ態度で抵抗するが、皆一年位で立派な一人前の道樂者になり濟ますのである。私の知人でよく私の處に來た人で、其人は中にも最も意志の堅固な品行の正しい人であつた。自分は南洋の暮しが厭で〳〵ならない。何とかしなければならぬなどゝ云つて居たが、それから三月程經つと、『自分は白粉臭い女が厭でならなかつたのに、今日は彼等と一緒に騒ぐことの出來るやうになつた』と云つた。一年半程すると之亦立派な放蕩者になつて了つた。

南洋に於ける高等教育を受けた日本の男子は、夜は裸になつて酒を呑む。猿股一つで歩いたりする。町を行くにも素足でゴム裏の草履を穿き、浴衣掛である。詰るものがあると、『ナニ糞ッ』といふ有様、故に外人の侮蔑は婦人に對するに

止まらない。皆教養ある不良壮年である。而して彼等は醜業婦に其收入を貢ぎ、身も魂も亡ぼしつゝあるのである。

□醜業を恥とせずして誇とす

斯かる有様であるから醜業婦は、自ら恥とするなどゝいふことはない。彼等は傲然と『何だ奥さんと云つても、手籠など提げて歩く奥さんが何だ』と云つてゐる。或るゴム林の支配人が或旅宿で歸國に際して友人と別盃を汲んでゐた。すると隣室にスマトラの方から來た女があつた。『何です高が二千弗や二千五百弗持つて歸るのか。妾達は其位の端金は一ヶ月で取るよ』と嘲つたといふ。事實新嘉坡に於ける各銀行の小口當座を調べても分る小口當座の大金を有する者は必ず醜業婦と云つてもよい位のものである。自分今度歸航する船の中にも現に二十六人の歸國する醜業婦が居つたが、何れも少くも五千弗は持つてゐた。併し彼等は其半數は舟の中で男に捲き上げられるのである。それを目的に毎船々々に往復してゐる男が居る。彼等は船中で香港迄に關係をつけて上陸するのである。

新嘉坡の醜業婦の大部分は長崎縣と熊本縣である。自分が船中に知つた一人は二十六年間海外に醜業を營み、アフリカ邊迄も廻つて來たといふ。彼が始めて渡航する時は外國船で密航した。四人連れであつたが其内三人は船底に匿され自分だけ石炭倉の中に積まれた。處が玄海灘で餘り動搖したので三人の匿れてゐるのを知らず船底の栓を拔いて水を入れた。私は年を老つてゐた爲め別に入れられたのが幸となつて助かつたが、船底に三人の姿を發見した時は既に白骨と化してゐたといふ。お前は之から日本に歸つてどうするかと聞くと、半年ばかり遊んだら、又南洋に稼ぎに行くさと笑つてゐた。それで年は五十六だといふ。彼等は南洋は私等が開いた天地だと云つてゐる。島原なり天草なりで、南洋で取れる賃金の半分でも取れるなら、好んで行きはしないんだといふ。中には支那人の車屋の女房となつてゐるのもある。土人同様立膝て、手づかみで御飯をたべ、板の上に寢て居る。

斯ういふ有様だから新嘉坡では歐羅巴人の間に廢娼運動も猛烈に起つた。けれども日本人は誰あつて贊成する者も後援する者もないのみか、却つてあらゆる毒舌を振ふたのである。支那人さへも自分の國の醜業婦を除く爲めに奔走したのに、日本人の有識者の間には此事の爲め餘り奔走する者がなくて頗る曖昧の裡にずる〱べつたりにして了つた。又或者は斯うもいふ。現在の日本人はあれ程放縦だから、あの女達を追出したら、却つて海峽植民地が亂れやうと恐れてゐる。それ程日本人は女も男も頽敗を極めて居る、今は實に何とか廓清の道を見出さなければならぬ迄に迫つてゐるのである。

昨日會員の一人が埼玉縣秩父町に往つた返り途、汽車中にて聞けば、秩父町に七百名の料理屋等ありて繁榮する處から、其附近に遊廓設置の運動始まり、二三ヶ所指定して請願せよと其筋にても地方民へ申聞けて、種々運動するものあり、略ぼ秩父町驛の隣「おやはな驛」を遊廓設置地と決定して請願したとの評判であります。聞捨てならぬ譯と存じますから不取敢御知らせ申します。何とか反對運動を致し成立させぬ樣に致したいものであります。(群馬縣太田九之入)

膠州灣問題の解決

廓清會長　島田三郎

□聯盟案修正否決と聯盟會議に提出

事實は膠州灣問題であり靑島問題であるが、支那の講和委員が巴里に於て山東問題の名儀によつて誇大の提議をなし、日本委員が此名稱の事實に叶はざることを分析的に說明せざりし爲め、遂に英佛伊の委員も釣込まれて所謂山東問題と稱ふるに至つた。然るに名は實の賓なるが故に、名儀の變化は實質の變相となつた。世界は全く山東問題と理會するに至れる事情は、前號誌上に記述したる處の如くなるが、米國議會の討論は益々紛糾錯雜して、多數の米人を五里霧中に迷はしめ、日本は獨逸から單に居留地を受繼ぐに過ぎざるの事實を變化して、殆んど日本の本土に等しく三千萬の人口を有する山東に割據するが如き、奇怪至極の空想を懷かしめたのである。乍併ウイルソン氏の熱心なる努力と說明とは、平和會議に於ける署名の眞相を漸く理會せしめ、民主黨のヒッチコック氏始め、共和黨の公平なる人々の努力によつて委員會の修正案は見事破るゝに至つた。

玆に於てか問題は一段落を告げた如くであるが、支那委員は何處迄も行掛り上、自己の面目と故國の政論とを引立てる爲めに、此問題を國際聯盟の會議に附すると公言してゐる。米國の上院に於ても修正案は否決したが、之を保留する如き狀態であるから、講和の本案に批准するとしても、此後聯盟會議の中に再び問題となるであらう。殊に此の議事の進行中突然我が內田外相が專管居留地を共同居留地にせんと考案中であると聲明した。一驚を吃したるは內地の國民よりも、靑島に諸般の經營をなしつゝある我が居留民である。專管居留地のことは條約で決定し、更に民政廳を開いて特に外務の芳澤參事官が實地を視察した時、專管居留地を殆んど保障する如き言をなしたから、愈々確定のことゝ信じ、居留地街區の地割町名より、諸般の企畫經營に至る迄、悉く專管居留地の基礎の上に著手しつゝあつたのであるから、今に至つて共同居留地となることは、彼等にとつて實に靑天の霹靂である。其の狼狽し其の失望し、而して憤激したるもの宜なりである。今彼等は現に總代委員を派して我が帝都に各所を訪ひ、其理由なきを抗辯しつゝある。玆に至つて靑島問題は其解決に一層の困難を生じ、後來の問題たるを免れないとなつた

□國際聯盟の大義と條約の正解

我等は茲に簡單に大主義から斷定する。日支親善は變ずべからざる主義であり主張である。我帝國は支那の弱點に乘じて無理な要求をなしてはならぬ。何處迄も互に相助けて東洋の共同利益を保持し增進するの精神が、徹底的誠意から支持されねばならぬ。是と同時に支那の主張が非理であるなら、諄々と其理由を說明し根據なきを諒解せしめなくてはならぬ。特に膠州灣問題の如きは後者の實例である。膠州灣問題の歷史的事實は前號に詳述したから之を繰返さぬが、簡單に之を云へば、日本が獨逸を擊退しなければ支那は獨力で膠州灣を淸掃することは出來ぬ。支那と合意の上で日本兵は當時中立の支那の地帶を通過して膠州を征取した（大正三年）。其翌年英佛露の承認を得、且つ支那との條約も明白に成立した遡つて云へば獨逸の占領したことに就ては米國も默認すること既に十餘年ではないか。加ふるに我國は始めより支那に還附するの意を明言して、還附其ものには終始變化はない。日本が支那に還附せぬといふなら議論も起るが、還附の一事は一點の疑義もないのである。支那の主張は參戰によつて獨支の條約が消滅したから、獨逸から日本に渡らず、直接獨逸から受取らうといふのであるが、是程實相に觸れぬ立論はない。獨逸も承諾し征取せられたのが事實で、英佛も承諾し對手たる支那自身も承諾し、其後の平和條約で獨逸も承諾したもので、且つ是を還すといふ事實に疑がないなら、直接も間接も支那に取つて同一でなくてはならぬ。況んや國際聯盟の精神は何であるか、獨逸が國際條約の神聖を無視して之を反古同樣なりと罵倒し、白耳義を蹂躪したことが、國際間の道德を無視した無前の暴擧であると評され、斯かる暴擧を直接膺懲し、將來に條約の神聖を確保せねばならぬといのが、戰時中及び戰後の國際の健全なる思想である。今支那の主張の如く、日支間日英佛間に確立したる條約が、前述の如き架空の議論によつて破棄し得るとするならば條約の神聖は茲に破壞せらるゝ惡例となるのである。卽ち斯の如き大義の岐るゝ問題に於て、日本は諄々其不理を說きて支那を反省せしむるは、一啻に此問題の爲のみに非ずして、國際道德の爲め國際の信用の爲めに支持すべき正論たるを確信するのである。故に我等は立戻つて、是れ靑島問題膠州灣問題にして山東問題に非ずとの事實より立論し、日本は徹頭徹尾條約の正文を正解して、一點の情實を挾むべからざるを主張する。

□米國の黨弊と我國の侵略主義

我等は是れを一個の獨立問題として前述の如く主張するが米國の上院が軌道以外の論を立て、自國の信用を減ぜんとしたのは甚だ遺憾である。幸に穩健なる議論が勝を制し、而も豫期以上多數の結果を以て否決し去つたのは、米國の上院にとりて慶すべきである。抑も同國の上院に斯かる根據なき議論が燃え立つたのは、一は國際問題を政爭の具に供せんとしたる一種の黨弊である。惟ふに眞の研究を遂げずして、ウイルソン大統領の勢威を毀つ可き利器となし、斯の如き形勢を馴致したのであらう。併し此間には一種の感情論も加はり所謂弱きを助くる熱情からも來たであらう。何れにせよ是が落著して冷靜に歸したら何等日米の間に根跡は殘るまい。支

那は從來の行掛り上日本を誤解してゐるのが割合に深い。日淸戰爭の結果は臺灣が割取せられ、日露戰爭の結果は滿洲が日本の勢力範圍に歸し、續いて朝鮮が日本に折入したから、支那の一般は日本の脅威を防がなければならぬと思はれてゐるらしいのである。日本は此疑を充分に解くのが東洋の平和を維持し利益を增進する所以である。何れの國も各種の政論があるから、日本にも此支那の憂を入れしむる餘地ある議論もある。斯かる議論を是認する論者なきにしも非ずであるが併し乍ら日本の健全なる議論と進步したる政治家。殊に世界の大勢から日本の進步論者を益々反獨逸的精神に醇化しつゝある今日に於て、支那國人が日本の國論を侵略にありと解するは大なる誤解である。されど日本は假令へ支那人の誤解にしても、既にその誤解がある以上は誠心誠意是を解くことに議論も實行も進めねばならぬ。我國の政治家は元より支那に事業を經營する國民は、果して幾何此の爲めに盡す處ありや、此點は我等の痛歎に堪えざる處である。

□與ふるものにして與へらる

此點に於ては從來一派の日本人が官と云はず民と云はず、力を挾んで他國に臨むの癖習を一掃すべきを我等は力說する抑も何故に支那人が米國に依賴するの心を生ずるか、何故に米國は力を用ひずして支那に信用を增すか。蓋し米人は利益を支那に取ることを知ると共に、利益を支那に與ふることを知つてゐる。種々の例を擧ぐる迄もない、義和團の賠償金を支那に還附して支那學生の敎育費に用ひしめ、留學生に供用してゐる。之から養成せられた者が今回の講和會議の委員となつて活動した青年壯年の政治家である。嘗て支那に利益を與へた米國は今日自ら利益を得る種となつた。是等の政治家が米國に助けを乞ふ情愛に於て、既に他國の及ばざる双方の聯絡がある。智慧から云へば米人の遣り方は實に深謀遠慮である。德から云へば與ふる者與へらるゝの原因結果である。之は嘗て日本に米國が施した處のものである。下の關の償金を日本に還附し、又日米郵便條約を早く締結し治外法權を解くの階梯とした。當時日本は他國よりも一層米國に依賴するの情が發揚したてはないか。公私共に多くの米人を聘して敎育上にも或は政治的にも、或は社會的にも種々の協同を依賴したてはないか。同じ形勢が今日の米支の間に成立してゐるのである。

然るに是と反對して日本の人特に其事業家は、物質的目前の利害に傾注し、與へることを知らずして取ることのみを考へてゐる。目前のことに甚だ怜悧の如く見えて、識者の目からは極めて淺薄である。孔子は『君子は之を己に求めて小人は之を人に求む』といふた。是れは自ら顧みよ人を責むるに專なる勿れとの意味である。言簡なりと雖古今を貫く親切なる敎訓である。また『身自ら厚くしていたく人を責れば怨み遠かる』と、人に責むること厚くして自ら省るの薄き我國人の短所を忌憚なくいふてある。原因を己の短所に求めずして他を責むるに聰明であることは、斷じて平和に國勢國力を外に伸ぶる所以の道てはない。膠州灣問題の根本解決も之を外にして決してないてあらう。

現代の勞働問題（一）

廓清會副會長
早稲田大學教授　安部磯雄

□勞働問題は卽ち奴隷解放運動

抑も勞働問題の起因は、勞働者の狀態が他の社會と比較して、餘りに其の相異が太甚しく寧ろ悲慘極まるものがあるから、其の狀態をして漸次改良して行かねばならぬといふ處から出發して居るのである。是れを强く言へば現在に於ける勞働者は、殆ど奴隷であつて加も其の數が極めて多いといふ事は、彼等に取つても又社會の爲めにも喜ぶ可き事ではないから、此の狀態から勞働者を救出さねばならないといふ事に歸着してゐる。或る意味から謂へば勞働問題は卽ち奴隷解放運動と言ふても敢へて差間がないから、私共が絶叫する處の公娼制度廢止といふ、公娼といふ奴隷を解放せんとする運動と同じ意味なのである。然るに或る者は勞働者を指して奴隷など、謂ふ事は餘りに極端ではないかと考へる人があるけれども、それは所謂表面の觀察に據る考へであつて、實際は今日の勞働者が奴隷狀態に置かれてあるのだから彼等を指して奴隷であるといふ事は敢へて過言ではないのである。

□勞働時間の鐵鎖に繋がる

何故に勞働者の多くが奴隷狀態に在るといふ事を私共が主張するかといふに、第一に現在に於ける勞働者の勞働時間といふものが餘りに長い。十時間乃至十二時間は普通なのであるが、斯くの如き長時間の勞働は啻に肉體的ばかりでなく延いて精神的方面にも累を及ぼすに至つて、健全なる精神の發達といふ事が望み得なくなるのである。中には極めて少數の勞働者は、それでも夜學に通ふとか或は獨習するとか、其の孰れかの方法を採り勞働者の境遇を脫して上進する者もないではないが、夫等は極めて少數であつて百人中に一人どころか、千人中に二三人といふ物の數にもならぬ程の割合であつて、他の大多數の者は勞働時間の餘りに長いが爲めに、何事も爲し得ずして終つて畢ふのが通例である。加も現在の多數勞働者は大概小學校位の教育を了つた丈で直ぐに勞働者となり、心身とも衣食の爲めに而已汲々として一生を終はらねばならないし、又其の子孫までも同じく勞働者となつて悲慘な境遇から脫却する事が出來ずに終つて了ふのである。

實際我々人間が十時間なり十二時間なりの長い時間を工場或は田畑等其他に於て働かねばならないといふのは、何う考

へても人間といふ者が此の世に生存して居るといふ意義を爲さないのである。斯る長時間の勞働を爲さねばならぬとなれば、人間は勢ひ物質以外に精神を寄する事が出來なくなつて來る。從つて其の狀態が永續すれば、可惜其子孫迄にも累を及ぼして、彼我共に喜ばしからざる影響を齎す事になるのである。現在の勞働者は鎖で縛られては居ないけれども、其の代りに勞働時間といふものに依つて縛られてゐて、彼等の凡てに餘裕といふものがない。此の意味に於て私共は現在の勞働者といふものは奴隷であると謂つても決して過言ではない。

□勞働の價値と其人數の割合

世の中には勞働は神聖であるといふ人もあるが、勞働時間が短かければ其の言も通ずるけれども、現在の如く十時間も十二時間も勞働しなければならない狀態にあつては、勞働は神聖なりと稱する事は出來ないのである。昔は希臘の哲學者アリストートルの如きは、奴隷制度は文明の爲めに是非とも必要なものであると云つた。併し乍ら其の議論は自分といふ考へを離れずに主張したからであつて、勿論政治なり學術技藝等の萬事が行はれるのは、一方に於ける奴隷が夫等の人達の爲めに衣食住を産出するからで、希臘の文明も其處に其の根據があると彼れは確信してゐたのであるが、今日でも彼の言ふ事を正しき事實はないが斯く考へてゐる者もあるやうに見受けるが、それは誤りである。社會は精神的方面の働き、と手足を働かす所謂肉體的勞働とが共に相俟つて今日の文明を築上げてゐるのであつて、換言すれば精神を勞して文明を作り出す他方には物質を産出して夫等の人達を活かしてゐる處の勞働がなければならぬのである。然るに精神的方面を勞する者と、他の手足を働かす者との人數の差は百人中に對する三人位の割合であつて、殘りの九十七人といふ者は小學校の教育を受けた勞働者なのである。之れを考へると現在に於ける勞働者をして奴隷狀態に置くといふ事は實に驚かざるを得ない事になる。勞働問題は卽ち其處に其の出發點があつたのであつて、今日の勞働問題は此の意味から所謂奴隷解放運動に外ならぬのである。

□賃金値上運動の無自覺

斯くの如き狀態を改善して行くには何うすれば良いか。それには先づ第一着に勞働時間の短縮である。それ故に歐米各國は固より我國に於ても、今や將に八時間勞働が盛になつて來て益々實行せられつゝある。從來は一ケ年を通じて盆暮の二回位の休日しか與へなかつたものが、今後は普通一ケ月間に一日なり二日なり、多くなると日曜毎に休日を與へるといふ事になつたのは寔に喜ぶ可き事であると謂はねばならぬ。從來勞働者を縛つてゐた鎖が勞働時間の短縮といふ事に依つて其の鎖が少しつゝ解けて行くといふ事になつて來た譯である。何時になれば此の鎖が全然解けて畢ふのであらうかといふに、それは現在續々實行せられつゝある八時間勞働といふ事が七時間となり六時間となり、もつと進むで五時間となればなる程、勞働者は其處に鎖りが解かれて奴隷狀態の區域から脫却して、人間らしい生活が出來るやうになるのである。

然るに我國の勞働者は餘り自覺がないやうに見受けられるのである。それは時間の短縮といふ事よりは、賃金の多寡にのみに沒頭して他を省みないといふ點である。是は眞に悲む可き事であつて、我國に於て八時間制を實行しても勞働者自身は、他の場所に行つて餘りの時間を働かんとする所謂內職を見付けるといふ傾がある。又八時間制度で勞働しても雇主の方から良い條件を出されるとそれに應じて勞働すると言ふやうな事は、孰れも勞働者自身の自覺が足りないからである。勞働者自身は是非とも八時間勞働の以外は決して餘分の勞働するやうな事がなく、其の時間をして自己の修養といふ方面に仕向けるといふ事にならねば、自由といふものは起らないといふ事を深く考へねばならぬ。歐米各國の勞働者は皆自覺して居るから、賃銀よりも勞働時間の短縮といふ事が大なる問題となつて居るのである。先づ其の一例を言へば本年の三月中英吉利に於ける石炭坑夫が次の如き要求をした。そしてそれが相容れられぬ場合には無論ストライキを斷行する覺悟であつたが、それは賃銀は從來の三割增で、勞働時間は六時間にする事を望むといふのであつた。萬一ストライキでも起されては大變だとあつて、ロイドジョージ首相は各方面から委員を擧げ、委員會を組織して調査した結果、賃銀の三割增は至難であるが其の代り一日一人に對し平等に二シリング即ち我國の一圓宛を增額し、勞働時間は六時間といふ事は現在の狀態から出來難い處であるから、八時間を七時間に短縮して明年から要求通りに六時間にするといふ事になつて問題が解決されたのであつた。之れを見るも實に堂々たる者があつて、賃銀の增額は兎も角勞働時間の短縮といふ事に就ては飽く迄も通さうといふ處に彼等の自覺があると思ふ。

□勞働時間の短縮と修養娯樂の機關問題

今回の國際勞働會議の議題に就て觀るも、五箇條の內一ヶ條には八時間問題が書いてある。即ち一週間の勞働時間が四十八時間の割合であつて、三ヶ條には婦人勞働問題、四ヶ條には幼年勞働問題等である、かく孰れも勞働時間の問題であつて、夜業を禁じやうとするのである。即ち午後十時より翌朝の五時までの間は、婦人及び幼年に勞働を爲さしめざるやうにしやうとするのであるが、之れを觀ても如何に勞働時間が今日の勞働問題の中心となつてゐる事が判るであらう。而して之れが解決する事が出來れば、現在の勞働者が奴隷の境遇から脫する事になるのである。

斯るが故に私共が我國の勞働運動に就て最も注意すべき事は、勞働者の自覺を促すといふことであつて、現在の勞働者が賃金のみを要求する事に汲々して他を省みないといふ狀態を打破して、勞働時間といふ事に就て自覺するやう敎へて遣らねばならない。だから現在では勞働時間を八時間にして、之れが平等に實行されるやうにする事が今日の我國勞働運動の目標となさねばならぬのである。同時に勞働者の時間が餘るといふ事から起る問題である。八時間勞働といふ事になれば、假令へば午前七時より午後三時までゝあるから、夕餐の時刻までには幾分か其處に餘裕がある譯である。だから夜だ

け位は自己の修養といふ方面に向つて來なければならない。然るにいざ然ういふ事になれば差當り彼等の修養機關の設備といふ事が大なる問題となつて來るのであるが、悲しい哉此の點になると我國政府の施設如何の問題となつて來る。現在でも個人の經營してゐる幾多の修養機關は無い譯ではないが何れも不十分であつて到底多數の人を容れる丈けのものではない。況して今日の勞働者が娛樂方面に向つて行くとなると、それ丈け其の機關を整へなければならぬ事になつて、此の問題は極めて重大なものであるにも拘はらず、現在では未だ此の方面に對して深く意を注いでゐる者がないやうである。青年會館の如き事業は此の點に於て寔に結構な事であるが、今日の狀態では遺憾ながら多數の勞働者が押掛けて行くとなると手狹になつて修養が出來なくなる。又夜學にしても然うであつて、現在の數から謂つても到底相容れる餘裕などはないやうである。況して娛樂の方面から青年會館に行つて運動するといふ事になれば其の何百分の一位の少數な人間しか收容する事が出來ない。

□剩餘の時間を奈何するか

斯くの如く今日の勞働問題は一方に於て時間の短縮と共に他の方面にあつては、勞働者敎育に關する種々なる機關を設備するといふ事が今日の極めて肝要なる問題であると思ふのである。而して短縮して剩つた時間を利用する事が出來るのであつて、若し然らずして單に勞働時間の短縮のみを計つて他を省みない時には、剩された時間は勢ひ酒と博奕等に空費するといふ懼れがあつて、それが爲め一時は勞働者を墮落せしむる事になるのであるから、今後は政府も又我々も共に其方面に心を用ゐて設備を怠らないやうにする事が必要である。之で勞働問題の大勢を略說した譯であるが、是れより漸次此の問題の重要なる細目に亘つて說く事にしやう。（續く）

廓清餘録

新廳令以前行つて見た事はあるが爾來の酉の市に行つた事がないので去十一月五日の一の酉にふと行く氣になつた。どの電車も滿員續き、吉原遊廓は盛んに人を呑んだ。

濃艶な花魁姿で格子戸の中から吸付煙草て、客を引上げる様な事のなくなつてゐるのは、元より承知の上てあつた。併し物蔭から態と長襦袢姿の艷容を以て人を招くやうに聞いて居つたし、例の積夜具といふ此の祭日の年中行事もある筈だと豫期してゐたのに、事　は全く之に反してどの店も、どの　も、たゞ店頭に寫眞を揭げ之に妓名を記しておく外、全然張店を禁止してあるから女の姿といふものは見えないし、いつからか積夜具も廢せられたと見えてそれすらない。

之れては一體何の爲めに廓内に斯う人が這入つて來るか譯が分らない所謂冷かしといふ事が全然出來なくなつた今日、ほんとうに登樓の目的以外來る處でないといふことを、誰も感じたであらう。此の幾萬の人出は、やはり昔の通り、花魁姿を見物しやうと思つて來たに違ひないのだから、彼等は悉く失望し此度もう二度と再び酉の市にも來るてないと考へたことであらうと思ふ。

して見ると我等が常に人道上から矢釜しく反對して、當局に迫まつて居つた此張店の禁止なるものは、啻に人道上の問題たるに止まらず風紀上殆んどどれ程の効果を擧げてゐるか分らないといふ事を知つた。現に今日だつて店を張つてゐるならつい登樓する氣になる人も隨分多く出來たに相違ない。

東京、大阪、愛知、兵庫等の府縣は大部會を有してゐるだけ、既に張店を禁止してゐるが、之は早く全國に及ぼさねばならぬ。目下問題になつてゐるのは長野縣である。

消費階級としての有識無產階級

廓清會評議員　高島米峰

■資本家の横暴に加へて更に勞働者の横暴＝賃金の値上勞働時間の短縮は消費階級の打撃■

消費階級は永い間資本家の横暴の爲めに苦んだ。處が近頃は其上に更に勞働者の横暴の爲めに非常な苦痛を與へられることになつた。

勞働者が賃金の値上を要求するは勿論理由のあることてあるが、結果は生産品の値上といふことになるのであつて、勞働者の賃金の値上せられるだけそれだけ、消費者の負擔が多くなる譯である。勞働時間の短縮といふことも、休日を定めるといふ事も、悉く生産率を減ずるといふことてあつて、又直に生産されたる品物の値上といふことをも齎らすのである。結局消費者は資本家が横暴であつた其上に、勞働者の横暴と云つては少し言葉が過ぎるかも知れぬが、此頃の様な勞働者の態度は横暴といふても差支ない位消費者の立場からは生活の壓迫を感じてゐるのである。

其結果は資本家と勞働者の生活は、益々安定を保つて行くのであるが――其生活といふことは物質的の意味の――之に反して消費階級は益々其生活が不安となるのである。假へば會社の利益なるものは、消費者によつて得られるものであるにも不拘、會社の利益は會社と株主と勞働者が分配して、消費者と云ふものは全く眼中に置かれて居らぬ。即ち會社の利益は生産者だけが之を分配して、利益を與へてゐる處のものは度外視されて居るといふことになつてゐる。政府の公債が五分利以上のものがないといふことから考へて見ても、如何に營利會社とは云へ、積立金をして勞働者に相當な待遇をして役員が賞與迄貰つて、其あとを株主が七割も十割も配當する様なことは確に不當なことてあると云ひ得る、それ程の利益があるならば、當然其利益あらしめた處の消費階級に向つて割戻さなければならぬと思ふ。如何にして是を割戻すかといふと、生産品の値下げといふことてある。郵船會社の如きは當然其運賃を値下げして、其利益を一般に分つべきものてある。にも不拘、株主が法外な配當をしてゐるのみてなく、國家の補助金を貰つてゐながら、それをも株主が分け取りにして了ふといふ様な奇怪千萬な有様は、皷を鳴らして大に責むべきものてなからうか。

■勞資兩者の爭は結局生産階級の内輪喧嘩＝隣の夫婦喧嘩て器物を壞さるゝ様な消費階級■

消費階級といふ立場から見たならば、資本家といふものも

勞働者といふ者も、共に之は生産階級に屬するものである。勞働者が結束して資本家と爭ふ、それは生産階級の中に於ける內輪喧嘩である。其生産階級の中に於ける內輪喧嘩の爲めに、罪もない科もない消費階級が生活を脅かされるといふ事は、非常な迷惑なことではなからうか。恰も九尺二間の棟割長屋で、熊公の內の夫婦喧嘩が、壁一重隣の八公の內の皿小鉢を壞すならば、八公こそいゝ顏の皮ではないか。或はいふかも知らぬ。資本家も勞働者も消費せずには生きてゐられないから、やはり消費階級でもあるのだと。勿論さうである。併し資本家や勞働者の現狀は、其收入所得が多過ぎて事實上消費し切れない樣な狀態ではないか。資本家の收入の多いといふことは勿論いふ迄もないが、下級の勞働者が一日二圓乃至三圓の賃金をも得易い樣になつて居る昨今の狀態に於ては、勞働者の消費といふ事は頗る容易で暢氣で氣樂であると見て差支ない。從つて此生産階級に屬する人々の消費といふことは最早問題として取扱ふ値もなく必要もないと言ひ得ると思ふ。唯茲に有識生産階級と稱せられる處の人々は、其收入が甚だ少くて其生活の程度は勞働者の如く低く簡單でない。少い收入で高い複雜な生活を營んで行くといふことは、今日の樣な生産階級橫暴の時代にあつては非常な困難でなければならぬ。自由競爭の時代は好い物が安く買へたのである。生産階級は好い物を安く賣るといふことによつて僅に其生産品の始末をつけ得たのである。從つて其時代に於ける消費階級は全く王者の樣なものであつて、生産階級は家來の樣なものであつた。消費階級は傲然として居乍らに好い品物を安く買い得たのであつて、生産階級は平身低頭して此消費階級の御機嫌を害はざらんと努めたのである。然るに生産階級の中で先づ資本家の側に組合が出來て競爭を止めて了ひ、勞働者は勞働者で結束して資本家の利益を分取りするといふことになつて、そして此二つのものが力を合せて消費階級を壓迫するに至つた。

處が此場合、消費階級は此生産階級に向つて結束することが出來ない。ストライキもサボタージユも出來ない。唯生産階級の命のまに〳〵金を拂つて品物を買つて頂かねばならぬといふことになつて來た。勿論消費階級でも組合の作れないといふ事はない。消費組合の如きも其一つであるが、併し其消費組合といふも畢竟生産者の鼻息を覗つて、其恩惠に待つといふことでなければ成立たないものである。又組合の組織の如何によつては、組合の幹部と組合員との關係は、やはり生産者と消費者との關係と同じ樣になることもあると思ふ。結局消費組合といふものは、消費者の生活を安定ならしめる爲には決して賴りになるものではない。極めて微力なるものである。

■有識無産階級てふ有識の二字と勞働者との相違
＝一國の國運を荷ひ文化を代表するものは中流なり＝■

それならば消費階級は生産階級に向つて非買同盟をやつたらどうだ、買はないといふ事をやつたら困るだらうと云つて非買同盟の可能を考へて見る。處が非買同盟によつて生産階級の受ける苦しみよりは、消費階級自身の受ける苦しみの方が痛切である。米が高いとて買はずにゐる譯には行かぬ。鹽

が高いとて鹽を嘗めずには居られぬ。此弱みが生産階級をして消費階級に向つて暴利を振廻はす所以である。

消費組合も微力であり、非買同盟も不可能であるとすれば一層のこと生産階級に向つて石を投げたり火をつけたりする様な最後の手段に出ることが出來るかといふと。そこは即ち有識階級といふ有識の二字が邪魔になつて、さういふ暴擧に出て得ない。畢竟消費階級は生産階級に向つて勞働者が資本家になし得た樣な戰をなし得ないのである。ぶつ〳〵口小言を云ひ乍ら日日痩せて行くといふことより道がない樣である。之で一體よいか惡いか。

人間の最も力のある時代は即ち老年でもなければ少年でもなくて、其中間の青年である。一國の最も發展の實を示すことの出來るのは、上流階級や下流階級の力ではなくして、中流階級の力でなければならぬ。即ち國の中流階級が非常に力のあるものなれば其國は必ず繁榮する、進歩し發展する。故に此の生活に勞れてゐる處の有識無産階級なるものは、實は國家の中堅でなければならぬ處の中流階級なのである。此階級が今日の如く疲弊して居るといふことは、國の將來の運命が如何樣であるかといふことを氣遣はしめること重大ではないか。佛蘭西の經濟學者バスチヤといふ人の云つた樣に、今の世の先覺者政治家宗教家其他のあらゆる人々は『吾人はあらゆるものを消費者の見地から觀察することを學ばねばならぬ』。（文責記者）

能代廓清會支部發會式祝辭

貴地に於ける青年諸君が、特種の青年團を組織して廓清會と氣脈を通じ、其の支部の成立を告げられ、今日發會式を擧げらるゝは吾人の欣快に堪へざる所也。何にを以て特種の青年團といふか、彼の全國に亘つて政府當局の奬勵する青年團と其性質を異にするが故に特種の二字を冠したるなり。惟ふに我國の通弊は年齢と履歴とを尊重するに過ぐ、之を世界の機運に考ふるに、青年自ら社會に任ずるの意氣ある所には精神潑溂として其の活動も亦快濶なり、近時歐米の諸國は陸續新人物を實地の壇上に送り、爲めに老功者亦其の年齢を忘れて自ら青年化するの風あり、是れを歐米の社會が沈滯せざる一原因とす。孔子曰く『少時血氣未だ定まらず之を戒むる色にあり』と。然れども今日我國の實際を見るに青年は却て中年社會よりは、品行の點に於て比較的純潔なり、是れ青年社會が新空氣を吸ひ新智識を求めて緊張の氣象を有するによる。之れに反して中年以上のものは往々舊習に汚染して智識慾旺盛ならず、自然自奮の念弱きが爲めならんか。能代に於ける青年諸君が時勢を察して高き理想を懷き、奮然風紀廓清を標榜して奮起せらるゝに至りたるは、沈滯せる日本の空氣を一新すべき好兆候と謂ふを得ん。抑も社會を動かすは人民自發の氣象に俟つ、他の誘導によつて規律的に動くは秩序整頓の外觀なり、然れども時に或は颯爽の氣象を缺く、且往々舊慣に囚はるゝの弊を伴ふ。予本年岐阜縣下を旅行し自發的のものと誘導的のものと比較視察したるに、自發的のものは精神充溢せるを見得れども、誘導せられたるものは諸事舊慣に囚はれ。其の甚だしきは酒食を集會の必要とするものあるを見る、過去の勢力に指揮せられ、舊習の束縛を離脱し能はざる斯の如くんば、社會の廓清の氣力之を何處に求めんや。貴地の有志が自ら奮つて廓清の新團體を組織し、吾人に盟契せられんとするは最も慶賀すべし願くば當初自發の氣象を純潔に繼續し、其の最後の成功を收められん事を。謹んで祝す。

大正八年九月六日

廓清會長　島田三郎

國際勞働會議に就て

法學博士 河津暹

□國際勞働會議の二目的

國際會議の目的とする所は、云ふ迄もなく國際的に勞働者の地位の向上及び幸福の增進を圖るにある。換言すれば端的に勞働者の幸福を增進するよりも、更に一歩を進めて國際的に勞働條件を規定して勞働者の地位を高めやうとするのが、其の國の目的であるに相違ない。斯う云ふても又其の裏面には、獨り勞働者の位地の向上とか、幸福の增進とか云ふやうな人道的な、正義的なもの許りでなくして、今日國際場裡に於て自然の目的になつて居る事は、卽ち勞働者の保護が行屆いて居る國が、勞働者の保護を行つて居らぬ國と競爭するに當つて、生產其他の關係に於て國際的に幾分か不利益な狀態になると云ふのを、此の國際勞働會議に於て此際勞働條件を一定して、之に依り經濟機關を組織して居る國が、今日其の勞働の保護を行ふて居らぬ國より受くる不利益を免れやうといふのが、裏面の眞相であり、第二の目的ではあるまいかと思はれぬでもない。國際勞働會議の問題を吾々が研究するに當つては、單に其の人道の爲めにとか又は正義の爲めとか云ふて國際的勞働者の幸福を增進する見方からして、此の問題を見るものゝみてあり、各國の勞働の競爭狀態を考慮の中に置くの必要があると思ふ。國際的に勞働の規約を基本として組合を設けて勞働をしやうではないかと云ふ議論は戰爭前から起つて居つたが、千八百五十五年頃はじめて、獨逸が中心になつてベルンに此の國際勞働會議が開かれたのである。此の會議に參加した國は十五個國であつた。

□九ヶ條の勞働規約協定

此の勞働會議に於て、時の獨逸の宰相が、演說した、此の演說は餘り長くつて飜譯出來ないが唯要領のみ摘んで申上ぐれば「世界の市場に於て、各國が競爭をして之に依りて產業を發達し、同時に勞働者を苦しめざる程度に於て、勞働の保護をなしたいと思ふ。が勞働者を保護するの厚きに過ぎ、外國の市場を失ふと云ふ事になつて、延いて內國產業を衰頽せしむるやうでは困る、其の結果としては企業的に唯苦しめられる事は勿論であつて、勞働者も又之が爲めに卽ち職業を失ふ」と云ふ事になる、そこで各國互に產業の發達を害しない程度に於て勞働者保護を遣らうではないかと云ふのであつた。さうして其後千八百九十年頃の國際勞働會議も勞働者の

幸福を増進すると云ふ極く單純なる意味とは思惟されぬ。亦先に述べた如き第二の目的が加つて居ると云ふ事は、略了解されるのであらうと思ふ。斯う云ふ沿革があつて、其中迂餘曲折を經て本年の四月廿八日に、巴里講和會議に於て「勞働條件基礎改善原則に關する事」となつて、又此問題が大に論ぜらるゝ事となつた。斯くて我國でも愈々ワシントンに開催さるゝ萬國勞働會議に使節を派遣することゝなつた。此會議は各國それ〳〵若干の例外は免れないだらう、此の會議は所謂九ヶ條から成立つて居つて第一は勞働は商品に非ずとする原則、第二は雇主並に被傭人に對し組合組織の權利を與ふる事で。第三は雇人の生活標準に適する丈けの給料を與ふる事。第四は、一日八時間一週四十八時間の勞働時間の採用であつて第五は實行可能の箇所には日曜を含み少くとも一週二十四時間の休暇を與へる事。第六は小兒の勞働を廢止して其の教育を繼續する事で、第七は、男女勞働者は同等の勞働に對しては同等に給料を與ふる事。第八は、勞働者には各國が之を公平に尊重して其の在住の勞働者には經濟的待遇をする事。第九としては、各國は被傭人保護の爲めに監察制度に對する規定を設け婦人をも之に參加せしむる事等であつて、何れも勞働者に對する問題では須要の事であつて、一般勞働者には總じて公正公平に取扱はねばならぬと云ふのである。特に感じなければならぬのは小兒の勞働を廢止し未成年者の勞働者には主として、其教育を繼續せしめて、國家の爲めに圖ると云ふので、所謂此の勞働條件と云ふものは、勞働者の改善を圖る基礎條件となるのであつて之を議する爲めに、國際勞働會議なるものが起つたのである。そこて、ちよつと申上げて置かねばならぬが、此の勞働會議なるものは。各國に取つて極めて重要であつて勞働者の地位の向上、幸福を增進しやうと云ふ事は、國力の發展卽ち一國の勞働を盛にして能率を發揮するに極めて重要なるものである。

□勞働時間と能率問題

此の點に於ては云ふ迄もないが、先進國が勞働條件の統一に力めて居つても市場に於ける競爭が劇しくなつて來ると後進國は先進國の勞働訓錬には對抗出來ぬ事となる。之は重大なる問題である、勞働をする方より云へば成るべく勞働時間尠ない方で、賃銀も出來る丈け多い方が宜いのである、何も彼も改善と云へば各國共通力勞働時間の下に行動しなければならぬ之れ自然經濟力に影響するのである。

獨逸宰相の演說のやうに、後進國の經濟力は必ず減殺される恐れがあるが。萬一經濟力が減殺されぬなら勞働者を保護すると云ふ事は、異論がないがさうすれば何處迄保護するかと云へば、一國の經濟力を減殺する程度にならぬやうに、勞働者を改善する必要がある、此の點に於ては冷靜に考へなければならぬと思ふ。日本の如く後進國が先進國に競爭をして行けるか何うか、之に對して勞働條件に幾分制限の行動を與へると云ふ。事は必要である。ちよつと例を擧げて見ると勞働時間を少なくすると云ふ事は結構であるが、表面の理窟は卽ち勞働の能率を發揮したいことになるので。之を消極的に云へば、勞働時間を多くするなれば、勞働能率の上からは宜

くないが、進んで考へても勞働時間を尠くして勞働能率を宜くする事は殆んど出來ない。それで勞働能率を宜くしやうとしても、今迄勞働者は十二時間働いて居るものは十時間働きたい、十時間働いて居つたものはそれて多いから八時間位勞働したいと思ふて居る。勞働のみを多くせば、能率は出來るかも知れない、尠ない方より云へば八時間て多いから六時間にしたいと云ふ、六時間ては多ういから四時間にしたいと云へば、さうなると遂に極端になつて來る、結局、勞働能率を多くしたいと云ふ點であるかも知れぬ。此の點は國に依りて同じてはない、現今の勞働狀態に於ては、九時間が一番勞働能率を發揮する度てあつて、八時間と云ふと能率が惡くなると云ふて居る。其の九時間より多くしてもいかぬ少なくてもいかねと云ふて居る。

□我勞働委員の資格問題如何

此の國際勞働會議に通過した案件は何うなるかといふと、各國ては法律にして實行するてあらう、勿論さうならなければならぬのてある。空文に終はるやうな事はない、必ずや實行させるに相違ない。それから此の會議の採決法は何う云ふ事にして遣るかと云ふに、之は極めて重要なる案件の外は多數決に依て確定するのてある。極めて重要なる案件に就ての採決は、私の考では會議に連なつた委員の三分の二の同意を得て定まるものと思ふ。假令へば我國に於て問題となつた所の勞働委員の資格を認めるとか、又認めないとかの問題があると假定すると、其の委員の資格がないと極める事は之は極めて重大なる案件であるから、斯う云ふ事に對しては簡單に決議はしない卽ち委員の三分の二の同意を待つて決するてあらうと思ふ。假りに會議に勞働組合から選出された我が勞働委員に就ては、それを會議に持出さうと云ふても、それが議論にてもなつたら。其の資格を調査するのてあるからちよつとは極らぬ。長くかゝる、獨り先例となる許りてなく若も其の資格を缺いたとなれば其の當選を失ふ事になる。さうすると議論はしても、其の投票權に立入る譯にはいかぬ事になるのてある、外國の方よりの代表は政府よりも二人は加はることになるが、さうなれば主張は無意味のものになる譯てある。假令資格が缺いてあつたとするも餘り酷めるよりは酷めない方が宜いのてある、若しも、策略の方面より云へば之れを認めて、資格がないなどゝ餘り騷がない方が宜いのてある一人にても勞働者側の投票權を失ふは決して策の得たるものてない。

然らば國際勞働の會議に於て決議したのは如何なる方法に依りて效力を生ずるかと云ふに、之には二つの方法がある。國際勞働會議は、國際的に勸誘して仕事をするには各國に勞働機關を設けるやうに勸告させる方法に於て國內の勞働の方法を改めるので、さうすると勞働の位地及び效力を發揮させる事が出來るのである。それから今一つの方法は國際條約の方法に依りて條約で規則を定めて、さうして其の國內に效力を及すやうにする遣方である。

□八時間勞働の起源と理由

一體、勞働問題として八時間制と云ふのは、何うして定つて、之が世の中で何う云ふやうになつたかと云へば、之は極めて單純な事て、獨逸のフレデリック大王が或る近侍の者に串戲半分に云つた事が抑もの起原てある。人間は八時間仕事をし、八時間勉強し、さうして後の八時間は眠ると云ふので學術上には何も根據

ある話しても何んてもない、それが今日勞働者の旗幟となつた譯である。それから進んて宜く調べて見ると、一日の中て勞働なして其の能率が多く發揮する事の出來るのは何の位の時間てあるか、無論之は筋肉勞働てあるが、學者の研究によれば、八時間前後が最も宜いやうてあるといふ。無論衛生上なも含んて、それから精神勞働の方は五時間半てあると斯う云ふ結論となつたやうてある。日本には八時間勞働と云ふ要求は最近に始まつたが、外國てはズツと早い、それから一般勞働者はかう云ふ考を以て居るやうてある、八時間働いて一日賃金幾らと極めて居つて、それ以上働けば、一時間に對して幾らと割増を貰ふと云ふ事に考へて居るやうてある。が之は勞働賃金の問題てはない、人間の體として八時間より多く勞働させては身體に故障が起るから、八時間以內は勞働して差支へないが、それ以上勞働させてはいかぬといふので、之が今回國際的勞働會議に依て極まる事になるのてある。今迄は十二時間働いて居つたものが八時間勞働となれば四時間殘る、十時間働いて居つたものは二時間殘る事となる。それて此ののこりの時間は即ち肉體の疲勞を休養させると云ふ趣意て、娛樂的慰安をするとか、修養の方に向はしめて勞働者各自の地位の向上と其の幸福を増進さす方法を講じさせたいと云ふのてある、主として個人的精神上の修養を圖らしむと云ふのてある。それて勞働會議ては原則として八時同勞働として、賃金も之に對する最低賃金は幾らと確乎と其の規約に極めて置く事になるのてある。實際からも議論としても八時間制は宜いのてある、それて既に歐洲ては此の八時間制を法律に依つて規定して居るが國に依て一々さう出來ないのもある。歐羅巴の方は餘程早くからかう云ふ規定が設けられたが、中にも諸威國が最先て米國の方は少しく遲くれて居る。米國ては洲に依て違ふ現に此間迄十時間勞働を一般に認めて居るやうてある、それが今次の歐洲大戰より八時間制となり、今や八時間勞働と云ふ運動は世界を風靡して居るの有樣てある。

□會議の重要案件は失業問題と其の救濟

我國に於ても世界各國の此の趨勢に逆行する譯にいかぬから、八時間勞働になつたら、熱心に側目觸らず業務に就ての能率を擧ぐるかどうかから考へていかねばならぬが、我國の方は外國の勞働者は今日のやうに少しの閑をも偸んて油を賣ると云ふ事ては能率を擧ぐる事が出來ぬ。之に對しては餘程勞働者の自覺が必要てある。それから最う一つ大なるものと見るべきものは夜間の就業てある。夜間勞働を廢止せば直に生產能率に影響を及す事にならうが、出來るなれば夜間勞働は廢止したいのてある、婦人の夜間就業などは宜い惡いは二段にして、之は廢止するやうに原則て認めるやうにするのは最も必要と思ふ。各國の勞働界に於ても婦人の夜間就業は公然として廢止されては居らぬが、然し出來る丈け時間を減縮して居るやうてある、何れ此國際勞働會議に於て種々の議論も出て、花を咲かすてあらうが、全然廢止するといふ事が出來ぬなれば、せめては夜業の時には出來る丈け休息を與ふる事になるてあらう。尚ほ此の外に於て關聯した問題は、婦人の勞働者が所謂產前產後の勞働てあつて之は何う云ふやうにするのてあるか。之は長くて六時間か短くて三時間位に止めたいが、一般勞働と云ふ方から見れば長い方が宜いのてあらうが之も經濟問題と共に衛生問題として考へねばならぬ。それから此の婦人の產前產後の休養と云ふ點てあるが、會社ては唯金を與へて休養させると云ふ事になれば、少しても婦人の爲めには長く休んだ方が宜いのてある、又さうてなくして休養する事となれば此の邊の取扱ひは何う云ふ事になるてあらうか。國際勞働會議に於て、若も難しい議論となるやうな事があれば、それは生產問題に其の救濟方法てあらうと思ふ。（談文責記者）

サボタージュに就て

法學博士　福田徳三

先達て或新聞に某博士談として。サボタージュといふものは男らしくないといふ樣な批評が出てゐた。併し之は恐らく記者の聞違だらうと思ふ。其麽ことを云はれる譯はない。ストライキは男らしくサボタージュは女らしいとは一體どういふ意味か。女らしいといふこと必ずしも正しからぬといふ事と同一ではあるまい。それともサボタージュは正しからぬ行爲てあり男らしからぬ所行てあらうか。

一體サボタージュといふ事は、佛蘭西語てあつて、佛蘭西に始めて起つたものてある。佛蘭西には英國などのやうに强大な勞働の組合がなかつた。小さなものは數多くあつたけれども微力てあつた爲め、ストライキをやる場合に生活費を組合が支出して吳れる樣なことは出來なかつた。從つてストライキをやれば給金が貰へない、忽ち食ふに困る、困るから資本家に屈服せざるを得ない有樣てあつた。そこで困らない樣にするには、給金を取りながらストライキと同樣の効果ある方法を發見するの必要が生じた。之が即ちサボタージュの由つて發生した原因てある。

けれども、一體サボタージュを怠業と譯するのは誤りてある。怠業てはなくして寧ろ大に勉業て、精出して働くのてある。だから川崎造船所の職工の行つたやうなのは、あれは寧ろ怠業とは云へない。怠業としても極めて幼稚なものてある。私が此事を或新聞に話をしたら記者がまた間違へてサボタージュを幼稚だと云つた樣に書かれて迷惑したが、サボタージュ其物が幼稚てはない、川崎造船所の職工のやり方が幼稚なのてある。彼等のやつてゐるのを見ると、機械の前に突立つてぼんやり煙草など吹かしてゐる。仕事などしてゐるんぢやない。ぶら〱してゐるのてある。あれては賃金を要求するのは元より不當て、男らしくないに違ひない。併しあれはサボタージュてはないのだ。あれはたゞストライキを會社に出て來て社內てやつてゐるに過ないのてある。

然らばサボタージュとはどんな事をするのてあるか。佛蘭西に於てはサボタージュの起りは鐵道てあつて、彼等はかういふことをやつた。先づ客が汽車に乘らうと思つて切符を買はうとすると、出札掛は何處迄お出になりますか、何歲てすかといふことを問ひ、それから丁寧に賃金表を調べて、やつと何圓何十何錢てすといふ。そこで若干の金を出すとお釣がないから、きちんと何錢迄揃へてお出しなさいといふ。仕方がないから客はやつと兩替して持つて來る。又改めて何歲何處迄を聞かれて賃金表を調べて、さて金を受取ると其金を一枚々々叩いて音を檢査する。そんなことをしてゐると汽車が出ると客が氣をもむが、併し出札掛はすべて旅客取扱規則に從つてやつてゐるのだから、どうすることも出來ない。其間にも、後から後から人が閊へて切符を買はうとするが、丁寧に規則の文面通り、正直に守つてやるので夥しく時間がかゝる。さあそれてやつと列車の中に乘込むと、今度は發車の時間になつても汽車が出ない。無論汽車は規定の時間に發車せしむべきものてあるが、車輛係は發車に當つては運輸規定に各車輛に故障なきかを改むべきことを記してあるから、車輛係は發車の前にハンマーを以て一々車を丁寧に叩いて見る　それて怪しければ取はづして調ぶるのだから、到底發車はいつの事だか分らない。それてやつと發車したかと思ふと、機關師は途中て假に汽車を止める、どうしたのかと思ふと、之亦機關手の規定によれば、機關手は前面に當つてレールに故障があると見れば何時ても停止することが出來るのてある。そして機關手は下りて行つて調べて見る。かういふ樣なことをやつたのてあつて、彼等は決して怠業はやらぬ。寧ろ平生以上忠實に服務するのてあるから、從つて賃金を請求する權利もあり、男らしくないといふ非難も當らぬし、怠業と譯するのは全く誤解てあるといはなくてはならぬ。（談）

勞働運動の風潮は遊廓にも襲ひ來つて、洲崎邊りては娼妓のサボタージュの噂が立つと、又茲に名古屋市ては娼妓の公休日要求運動が起らうとしてゐる。八百屋にも吳服屋にも公休日が出來八時間勞働にさへなりつゝある今の時代だから、年百年中親の忌日てあらうと病氣てあらうと、厭なお客に貞操を蹂躙せしめればならぬ彼等が、せめて月一日の公休を要求するのは、勿論當然てある。

福澤諭吉氏の夫婦論を評す（五）

一條忠衛

人格的戀愛無き結婚者の配偶者の死亡せる場合の再婚

次に吾々の考へねばならぬことは、無自覺的に結婚した者が結婚後に人格的戀愛の無い生活を爲して居る間に其の配偶者が死亡した時には、再婚しても善いか惡いかである。思ふに此の場合は前節に述べた戀愛結婚の場合とは正反對になつて居る。結婚の目的は人格的戀愛に存するのであるが、此の場合には第一に之れを有して居ないのであるから、實際に於ては結婚の根本要素なる夫婦契約なるものを具へて居ないので、有名無實の結婚を營んで居る者である。然るに其の配偶者が死亡したのであるから、固より之れを好機として更めて人格的戀愛によつて再婚して善い。是れは誤れる過去の無自覺的な結婚から脱して、男女生活に於ける新人となつて人格の復活を企圖する行爲になる。寧ろ歡迎して然るべきものである。人格的戀愛のない生活をして居ながら、鴛鴦として一世を欺瞞した者は、此の期に際して須らく懺悔して新人となり、人格的戀愛によつて再婚して人生の復活を期すべきである。『悔い改むるに憚ること勿れ』とはこゝを云ふので、男女道德は一方に於てかゝる性的亡命者に對して深き同情を有し、之れを救濟する道をも開いて居る。唯だ此の場合に戀愛なしに無自覺的に生んだ子を有つて居る時には、その子を如何に處分するかゞ問題になる。縱しんば戀愛なしに無自覺的に生んだ子であつても親としては之れを養育する義務がある。何等道德的の意義を帶ばずに、唯だ本能的性交に由つて生んだ子でも彼の禽獸はこれを育んで居るから、人間もこれを爲し得ざる道理は無からう。唯だ禽獸は無自覺的に本能的に行動すればこそ之れを育くみ得るので、一旦豁然として貫通し、自覺批判の域に達した人間としては、斯かる子を育くむには人知れぬ羞恥を感じ、隱れたる煩悶を爲すであらう。自分の愛し得ぬ異性によつて生んだ子に對して愛着の薄いのは數の免れぬことである。人格的戀愛の結果として之れを考へればこそ之れを寶子として寵愛し、齡の老ゆるも忘れて子の爲めに働くのであるが、之れを初めから蛇足と看做し罪の子として葦舟に入れて流したい事情があるならば、家庭教育は迚も成功するの見込が無いのである。それで斯かる場合には却つて之れを慈悲深い社會の仁人に委ねて養育した方が親子雙方の利益であり、社會改良の要訣である。さうして自身は獨身で世を終るとも

又は人格的戀愛によつて再婚して過去の無自覺的な性的生活から復活するとも、それは任意である。

離婚者の再婚

さて以上の如く人格的戀愛によつて結婚した者の配偶者が死亡した場合に於ける再婚は、一夫一婦の男女道德より見て不道德行爲であつて、人格的戀愛なしに無自覺的に結婚した者の配偶者の死亡した場合に於ける再婚のみが許容されるのであるならば、次に離婚者の再婚なるものは一夫一婦の男女道德より見て如何なる性質のものであるか。これに就いては福澤氏の一夫一婦論には何事も語つて居ないけれども、少しも之れを禁じてゐないから、無論氏は之れを常識として許して居るのである。然らば此福澤氏の默許は果して正しいか何うかと云ふに、大に正しい。余に於てもこれは全く同感であつて、男女道德の上より見て離婚者の再婚は一夫一婦に反する性質が無い。是れは全く離婚の性質に基くので、極めて明瞭なる概念である。何ぜかと云ふに、離婚と云ふものは結婚の解除であつて、結婚そのものを取消したことである。即ち夫婦關係を取消して結婚以前の原狀に復することである。換言すれば結婚の目的にして實現されない無價値なる場合に、その無意義なる結婚から、自己の性的關係を絶つて、原狀に復歸する必要から來たのである。其の方法には協議上の離婚と裁判上の離婚と二通りあるが、其の離婚の理由には種々の條件があるが（男女道德論第八章參考）、その根本的の理由は結婚の目的にして本體たる人格的戀愛を惡意を以て裏切られ、夫婦の性的生活を無意義に終らせたことである。此の場合には一方は一方に對して男女道德上の不正行爲として正義の上よりその非道を詰り、前非を悔ゆべく忠告を與へることは夫婦の義務として必要であるが、一方はこの忠告によつて悔心せず、依然として夫婦の性的生活を無意義に葬らしむる場合には、一方はこの狀態に甘んじて生活すれば自ら自己の性的人格を侮辱し、人生の目的に反するが爲めに、憤然として怒り、協議上の離婚を以て逼るか、之れに應ぜぬ時は裁判上の離婚を以て解決しなければならぬ。幸にして一方の後悔によつて元の夫婦に納まつた場合には誠に目出度いことであるが、不幸にして離婚になつた場合には自己の後半生を處分するの方法を講じなければならぬ。先づ既往に遡つて配偶者選擇に於て過去の罪を負はなければならない。人格的戀愛の僞善者にして反一夫一婦の不道德者を當初に洞察し得ざりし自己の不明を悔いねばならない。けれども他人の將來に屬する不道德行爲の全體を絶對的に豫見することは不可能であり、且つ其の直接の原因は配偶者の現行罪惡にあるのだから、自己は直接に於て性的不道德を行つた者では無い。單に性的過去者であつて其の罪は輕く、寧ろ同情しなければならぬ可憐者である。それで斯かる結婚の失敗者に對しては、離婚後に於て之れを人格的戀愛者の配偶者の死亡した場合に比較することは出來ぬ事情がある。彼れの場合に於ては戀愛結婚の成功者であるから、配偶者が死んでも其の戀愛には變りが無いので、依然として結婚の目的なる人格的戀愛を捉へて一夫一婦の生活を續行し得るのである。けれども結婚の失敗者としての離婚者には之れが出來ない。人格的

戀愛の斷絶を理由として結婚を取消したのであるから、一夫一婦の生活を爲して獨身者で居る者では無く、全く實質に於て獨身者の原狀に復したのである。それて此の上は獨身で世を渡るとも、又人格的戀愛を新に建設して再婚することに由つて一夫一婦の生活に入るとも、それは共に彼れの自由である。女大學評論の十六頁に民法親族篇の離婚法を氏が承認されて居るのは取りも直さず離婚者の再婚を承認した者である。

結尾

之れを要するに我が明治年間の男女思想界は混亂の時代であつた。東洋思潮と西洋思潮との落ち合つた一面の澎湃たる濁流と云ふ有樣で、之れを飮料に供することも出來ず、血液に變ずることも出來ず、單に之れを沼湖に蓄へて清澄を待つに等しいものがあつた。上は大臣宰相より下は庶人に至るまで、性的生活の規範が無く、或は一夫多妻或は一妻多夫の現象を呈し、上下を通じて淫風の蕩々たるものがあつた。此の時に當つて時弊を慨して男女問題に留意し、男女道德を說き、一夫一婦論を主張して衍大の筆を揮つた福澤諭吉氏の事業は、我が東洋男女道德史上に於ては沒すべからざる功績である。歷代の道學者が數萬言を以て文を作り、身長の著述をものして大列傳を爲して居乍ら、竟に男女の性的道德に說き及んだ者の無かつた時に、男女の自覺を叫び男女の同權を論じ、一夫一婦論を以て統一的に說明した氏の獨創と聰明とに對しては吾々は之を一代の先覺者として仰ぎ男女道德硏究の先驅者に奉ぜねばならぬ。

さて世の文化は駸々として進み、男女思潮は益々精に入り微に入つて止まない。今日の男女道德は明治時代の男女道德とは大に其の趣を異にし、頗る批判的のものとなり、科學的のものとなつて來たので、將に倫理學上に於ては一分科を爲さんとする勢であり、西洋に在りては之れを性の倫理學とも云ふ程である。さて此の性の倫理學から福澤氏の一夫一婦論を見れば其處に幾多の矛盾を有し、缺點を含むものであつた。さうして其の矛盾の生じた所以は、氏が女子の解放に急なるの餘り、その夫の死亡せる場合に男子同樣に再婚を許し乍ら、一方に於て偕老同穴を奉じ、一夫一婦の原則を同時的に解し、之れを以て人生安心の大自在法と排斥し、『貞女兩夫に見えず』の掟を爲した點である。それから氏の一夫一婦論は結婚の目的が鮮明になつて居ないので、人格的戀愛なるものを知らなかつた爲めに、結婚の本體なるものが抑も那邊にあるかを知るに苦しむ次第である。これが爲めに氏は戀愛なき結婚者の配偶者の死亡した場合の再婚又は離婚者の再婚に對しては一夫一婦論より統括的說明を與へなかつたことは頗る不備な點である。此等の矛盾と缺點とは福澤氏の一夫一婦論の大なる弱點であるが、幸に吾々青年男女は精神に於て氏の一夫一婦論を繼承して、此等の矛盾を去り、缺點を修補して男女道德を完成することが出來る。否な我が日本社會の男女道德をして泰西のそれに拮抗させ、寧ろ彼等の男女道德よりもより以上の意味に於て世界の人道に貢獻して人類全般の性的生活を向上させ、人格的戀愛に滿てる平和なる家庭を實現して、無意味なる國際的爭鬪を一掃したいものである。是れ實に一夫一婦論の世界的使命である。(完)

青年男女と性的生活

醫學博士 永井潛

□物質萬能主義と結婚問題

此の問題は元來眞面目を要し、且つ問題其のものが嚴肅であるからお互に周到なる注意を要し、徒らに表面的の淺薄な想像や研究は赦されないのである。若し面白半分に此の問題を取扱ふといふにあれば、开は甚だ危險であつて寧ろ問題に觸れぬこそ得策である。私は玆に愼重なる態度を以て此の問題を說述する事にしやうと思ふ。

性來人間には生に對する强烈なる執着心があつて、死といふ事を怖れる事は一通りではない。謂ふ迄もなく自己の存在といふ事に就ての執着心に外ならないが、其歸する處は要するに我々が祖先より生命身體を授けられたやうに、我々も又た子孫といふ我々の血統を斷絕せしめぬ本能に外ならないのである。此の意味に於て我々は自己の存在といふ事と同時に子孫の繁榮といふ事をも考慮せなければならない。子孫の繁榮は云ふ迄もなく結婚といふ事に歸着するが、此大切な結婚を社會の人達の多くは、自己の存在といふ事と結び付けて考へてゐる者は少ないのであつて、換言すれば自己の生死といふ事に就ては極めて眞面目であるけれども翻つて子孫の前途に就ては比較的考慮を要せざる感がある。古來より『氏より育ち』といふ諺がある。生れは兎も角育ちさへ良ければ人間は如何ても、立派なものになるといふに外ならないが、それは大なる誤りである。完全なる人間を要求するには、氏も相當良くなければならないと同時に、又育ちも十分でなければ到底完全なる人間を育て上ぐるといふ譯には行かない。丁度氏と育ちとは織物に於ける經緯の如きものであつて、二つとも備はつて初めて理想的な人間が出來るのである。此の故に自己の生存と共に將來の子孫に就ても考慮を要するとなれば、玆に結婚の重大なる事も了解する事が出來るのであるが、近來物質萬能に傾いた社會は、此の極めて重大なる結婚が矢張り物質に依つて左右せられるやうな洵に寒心に堪えぬ惡風潮が漲つて來た。十八世紀以來の物質萬能主義が延いて結婚までにも波及するに至つたといふ事は、人類の爲めに甚だ嘆ずべき事であらねばならぬ。これらは要するに社會が性的生活といふことに就ての覺醒がない事にも原因してゐると思ふ。

私は次に此の性的生活の問題に少しく觸れて、諸君の嚴なる判斷と熟慮と處置とを仰ぎ度いと思ふ。

□人類と動物との相異する點

動物が生存するといふ事は前述の通り、生存しつゝある其のものを尙將來に生存せしめなければならない使命がある事は言ふ迄もない事である。それを稱して種族保續といふのであるが、人間には動物と異なる處の自己保續といふものがあつて、此の二つに區別される保續に依つて人間は生存しつゝあるに外ならない。而して自己保續には利己主義と利他主義なる卽ち他愛主義である處の戀愛も之から起るのであつて、人間は此の二の調度に依つて意義ある生存を爲し得るのである。然るに動物は此の極めて美しい尊い處の利他主義といふ者がない。下等動物ほど種族保續といふ事のみに生存してゐて、利他主義なるものが薄らいて行くのである。人間と動物との主なる相違は卽ち玆にある。それは畢竟精神といふ尊い處のものがある爲めであるが、此の故に精神生活が進捗するに伴れて、利他主義卽ち戀愛關係といふ事も益々高調されて行かねばならぬと思ふ。

人間と動物の最も異なれる點、卽ち動物には種族保續といふ以外に自己保續といふ事に就ては餘りに主きを爲し得ないといふ實例は、今更ら玆に諄く申述べる迄もなく何人も想像し得らるゝ處であるが、今玆に亞米利加のジョンストンといふ學者の調査された一つの實例を引證して見やうと思ふ。それは亞米利加の鹿に就ての種族保續の話であるが、鹿は春になると毛皮が變つて、木の芽の出る時に角が新しく生え替はるのである。而して若草が到る處に生える頃になると子を生む。夏にも秋にも冬にも決して春以外の季節には子を生む事をしない。何故かといふに春は氣候が暖で加も若草が到る處に生えてゐるから、鹿の子の生育といふ事に就ては極めて好季節であるからである。若し夏であるなれば水を得るに非常なる不自由を來し、秋であれば次には冬といふ寒い季節が控えてゐるから、子を生むには必ず春に極つてゐるさうであるが、之れなども種族保續といふ趣きが自然の儘によく現はれてゐると思ふのである。夏に於て生成した鹿の子は秋になると親同樣の鹿となつて、そして秋になつて交尾するさうであるが、之を見ても如何に外界の影響といふ者に旨く順じて種族の保續に苦心してゐるかゞ判るのである。然るに人間は外界の影響に左右せられずして生存の使命を遂ぐる事が出來る。謂ふ迄もなく精神生活といふ事が原因を爲してゐるからであるが、或る形には自己保續以外に種族保續といふ事を考へぬといふ者もないてはない。それは大に悲む可き事てなければならぬ。

□性欲に對する宗教道德の誤謬

人間が動物と異なる點は前にも述べた通り、人間は精神といふ尊いものがあるに外ならぬが、其の主なる形ちは人間には交尾期といふものがない事である。動物には一年を通じて交尾期といふものがあるのに、人間にはそれがない。畢竟するに人間は自然の支配より高めて自己の意思を行ひ得るといふ事が人間の人間たる所以のものである。或學者は婦人の月經を指して動物に於ける交尾期の變化したものだと稱する者もあるが、私はそれには信を措く譯には行かない。人間は天然と外界との影響如何に關せず、自己の意思を以つて種族を保續する事が出來得るに至るものだと信じてゐる。それは內的原因の然らしむる處て、卽ち婦人の卵

巣、男子の睾丸から發せられる處の影響にも大なる原因を有すると考へられる。近來研究を明にされた內分泌といふ事がそれてある。人間の身體から外に向つて分泌せらるゝ外分泌は數多あるけれども、內分泌は只だ生殖器からのみてあつて此の內分泌が身體の構造の各處へ影響する許りてはなく、精神にも又た大なる影響を齎すに至るのてある。男女の相異の主なる點は即ち此の內分泌の發處が、男は睾丸てあり、女は卵巣てあるか爲めてあつて、即ち生殖線の相異といふ事が其の區別を明確に爲す原因てあると信じてゐる。

婦人の月經といふものは卵巣にある卵が成熟して、活動を初めると共に黄體が出來る。そしてそれが血液に送られて子宮の粘膜を破つて月經が出るのである。斯樣に生殖線の相違が男女の區別を明にしてゐるのであるが、生慾といふ事は此の內分泌から起つて來る處の一つの方面に外ならない。だから此の問題を單に抽象的に倫理學なり宗敎的に依つて取扱はんとするが如きは甚だ當を得ざるものと信ずるのである。何故かなれば此の根本に觸れずして遊廻しに倫理宗敎問題を以つて論ずるといふやうな事は適當な制慾方法ではない。何うしても眞面目に性的の活動の上に論據を措いて適當な方法と手段とを講ずる外に道はないのである。

□性慾問題と個人の自覺

然らば當を得たる制慾手段の道は何れにあるか。換言すれば如何なる手段と方法とを採つたなら、此の性慾問題に對して誤らざる態度を採り得るかといふに、それには先づ我々人間の身體に存する處の調和機關といふものから考へ起して見ねばならぬ。調和機關といふのは謂ふ迄もなく神經系統を指すのであるが、人間の身體で最も複雜に發達してゐるものは此の神經系統であつて、即ち大腦の發達といふに外ならないから、此の性慾の制御に必要な大腦といふものに就て深く留意せねばならない。制慾の問題は斯る立場から研究し考慮し判斷して、大腦に依つて身體を調節する事が極めて肝要である。即ち自己の意思をして鍛錬して、健全なる大腦と爲し、而して自覺し制慾問題に對しなければならないのであるから、此の意味に於て單に道德宗教倫理等に依つて解決せんとするは甚だ迂遠である許りではなく、或る場合に於いてはそれが爲めに餘波の禍を釀す懼れがないとも限らぬといふ事になるのである。併し私は夫等のものが不必要であるといふ意味ではない。只制慾に對するの道としては其の他に適當なことがあるといふ事を信ずるに外ならない。即ち各個人の性慾問題に對する自覺といふ事が即ちそれである。

□單細胞生物と其の生殖作用

我々は是非とも性慾問題といふ事に就て各個人が覺醒するの緊要なる事を述べた。さて性慾といふ事は何であるか。謂ふ迄もなく生殖作用といふ事に外ならないのであるが、然らば其の生殖作用なるものは如何なる意味を以て居るものか。言ひ換れば動物は如何なる狀態の下に生殖を營むかといふに之は研究の順序として動物の最下等に屬する單細胞生物に就て其の作用を見る事が最も簡單なのである。佛蘭西のモーパーといふ學者は、生物の死不死の問題を試めす爲めに、原始的の單調生物に依つて試驗して見たのであるが、此單細胞生物には雌雄といふものがない。形に現はるゝ種族繁殖の有樣は自個の體が二つが四つになり、これが又た四つが八つになり、八つが十六になるといふ殆ど無限のやうに續く事が出來るのである。是れを以つて生活體の不死といふ事はないと考へたのであつた。草履虫や草鞋虫なども此の類に屬するのであ

るが、併し無限に續くといふ事はない。短時間に分離作用が消衰して大體は二百生體位なものである。て其の作用が消衰するを一つの生物が他の生物と口と口で接吻をする。而して自己の或る成分を他に移するのであるが、さうすると又俄に若返つて前の作用を初めるのである。それは丁度高等動物が生殖作用を營むと同樣であるから、其の接吻は一種の性殖作用と見る事が出來る。斯樣に生殖作用といふ意義に就ては頗る深遠なる物があるので、生物體が幾萬年といふ永い種族を保續する原因も其處に存するものと謂はねばならない。

斯の如く單調細胞生物すらも生殖作用といふ事に依つて種族を保續するのであるから、況して高等動物が生殖作用を營むといふ事は何等不思議な事ではない。只有機體にあつては其の趣が異るのであつて、卽ち特別なる或る身體の一部分が能力を使ふに外ならない。而して高等になるに從ひ分業になつて、婦人は受動的となるに至つたのである。

□結婚の意義と人格の向上

人間には動物と異なる精神の發達、卽ち種族保續以外に自己保續といふ方面もあるといふ事を前に述べた。下等動物ほど種族保續に主きを於て自己保續といふ事をば殆と省みないい例を擧げれば蟬の如き松虫の如き或は蜜蜂の如く生殖作用を遂行すればそれで己れの生命を失ふといふやうな自己保續を犧牲にして迄も種族保續の爲めに生存する以外に、人間には自己保續があつて是れが延いて利他主義卽ち戀愛といふものを生出するのであるが、其は要するに生殖腺の內分泌作用から起るが爲めてある。だから男女を結び付けるといふ事は其の戀愛に依つて完全に男女を合體せしめ、其處に新しき生命を生出する處の所謂種族保續といふ事に意を用ゐなければならない。其の自覺した人間の義務の觀念を喚起してこそ人間の人間たる價値を見出す事が出來るのである。斯樣に性慾問題は自己保續の上に大切なることゝ同時に、社會制度の根底となる可き重要なる問題と信ずる次第である。

種族保續並に自己保續といふも要するに其の歸する處は結婚といふ最後の方法に待たなければならない。此の意味に於て結婚が忽せにする事が出來ないのは當然である、現代の結婚が前述の理から實行されつゝあるかを稽ふる時、吾人は寒心に堪えない事實を見聞して獨り同情の念に堪えないてのある。

現代に於ける結婚方法を觀ると第一は金であつて、相手方が物質に缺乏を訴へるやうな者でなければ喜んて結婚する。戀愛などは眼中に置かない所謂物質交換といふ意味の結婚である。此の傾向殊に近來甚しくして、衣食に自由であるといふ事が殆ど結婚の最大要件となつてゐるやうてある。併し乍らそれは前にも述べた結婚といふ意義から反する事になる。戀愛のない夫婦は丁度砂漠を歩くやうな溫みのない日を送らなければならないと共に、其の間に生れた子供も又た完全に敎養する事が望み得れらない事になるのてある。第二は戀愛結婚てある。戀愛結婚なる者は理想に於て極めて崇高なるものてあるが、現代の社會に於ては完全なる戀愛結婚といふ事を望み得る事は至難てある。併し何うしても眞の戀愛に依つて夫婦といふ者を結び付ければならぬのは謂ふ迄もない。第三に性慾結婚であるが此の性慾結婚といふ事が今も尙ほ盛んに行はれつゝあるのは洵に悲む可き事てあらればならぬ。年頃が來れば結婚させなければならぬといふ淺薄なる理由の下に望みもしない當人達を無理矢理に結婚を强要するといふやうな事は面白くない遣方てある。社會には何時も悲慘の絕間がないのは卽ちそれが爲めてある。

以上述べた如く性的生活といふ事は極めて嚴肅なる態度を要し、人間の種族保續と自巳保續との上から深く考へねばならないのてある。（講演大要文責在記者）

國家主義と國際主義

法學博士 穗積重遠

▽昔は義務本位、今日は權利本位

漠然たる題目であるが、最初より其の趣意で論じないで種々の事を申上げて、結論に於いて題目に當箝める考へである詰まり私の題目としてのナショナリズムと、インターナショナリズムも其歸着する所は共同生活を圓滿に發達させたいと云ふとになるのである。一體私達は法律屋であつて朝から晩まで法律を捻繰り廻はして居るものであつて、權利とか義務とかを云爲して居るものである。然し國も段々に進歩して來ると從つて國家の法律も民智の程度を斟酌して改廢していかねばならぬものである。即ち國民の生活に副ふやうにしていかねばならぬものである事は爰に吾が言を俟たぬ、一國として變化があればそれに依つて總てに改善を講ずるのが當然であると思ふ。法律でも段々とさう云ふ氣味になつて來た昔の法律になれば「何々すべからず」とか「何々する事を禁ず」とか書いてあつたが、今日の制度になるとさう云ふ昔の筆法ではなくなつて來た。昔の法律の書き方は權利を先にして、今日の書き方は義務を先きに書いて居るやうである、昔は主として人民の方に義務的命令で義務を負はせるやうになつてゐた。同じ事でも義務から云はずして、權利から云ふて居つた「何々する事を禁ず」とか「何々する事を許す」とか云ふ樣に書いてあつたのである。昔は義務本位の書き方、今日は權利本位の書き方である、それで之は何かして斯樣に變つて來たのであるかと云へば民衆の團結強くなつて來たからである。詰り個人々々が相集まるのが強くなつて來た、さうして社會をなしそれが國家となつて昔の小さい個々の團結ではなくなつて來たのである。斯う云ふやうに國家が組織されて來たから國家として各自の自由行動を許さぬ、斯うして彼してはいかぬと云ふ若し之に背いたならば斯う云ふ義務を科すると云ふ事になつたのであるから、從つて法律の書き方も變つて來たのである。

▽個人の自覺は自由を要求す

然らば何ぜ個々の團結強ければ社會も國家も強大になるかと云へば、其の根本は個々相集つて生活をするから即ち共同生活が圓滿に發達した證左と認めなければならぬのである。此の共同生活の揖睦圓滿は延いて社會の一致となつてそうして國華の發揚となるものであるからして、其の根本主義

は即ち孔子の謂はれた「仁」に歸せねばならぬので、此の仁とは仁政であつて此仁の宜く發達した者は今日で云ふ所の共同生活の發達したものなのである。故に此の共同生活が圓滿に發展し得ないなれば一國としても圓滿に型どつていかぬ。

昔の例として最も宜く共同生活として見るべきものは動物の中でも蜂とか、蟻の如きは此の共同生活の發達したものと見なければならぬ動物でも立派な發達したる共同生活である蟻の中でも一方は物を運ぶものがあるに、他の一方では大將になりそれを指揮して居るものもあれば又王樣になつて晏然として居るやうなものも見へる、之れ誰れが命令する迄もなく其の態を眺めて居れば實に組織的統一的共同生活である、人間も相團結はするが時に爭が起つて大紛擾と云ふやうな事にも立ち至るは蟻だけの共同生活の一致ない證據である、然しふう云つても蟻は動物であつて何等自覺がない、唯本能に依つて生來さうなつて居るのであるから餘り尊敬は出來ない

人間の個々相寄り相助けて行くには自覺がある、此の自覺があつて遂に團結となるのであるから組織的に強い譯であるが然し中には此の自覺がなく、謂はゞ無我無中で團結してるものもある。十分自覺して團結するなれば、それは論外であるが、自分は斯うして何の爲めに人の下に立つのであるか何ぜ人の云ふ事を聞いて斯うして居るのかと云ふ其の自分を知るの自覺なく、唯慢然として居るのであるが位にまだ知らぬものもある、共同團結も强さと弱さに區別が立つ事となるのであるが、人に敎へられて團結をするやうてはまだ〳〵眞實なる共同生活が出來得るものとは思はれぬ。

此の共同生活の大切なる事は一般の人は自覺がないやうてあるが夫等は社會に於いても低級に屬する無知のものと斷言しなければならぬ。それて義務本位から云へば、斯うしなければ人類として働きが缺くるから斯ふしなければならぬとして個人が其の自覺を知るやうになるには敎育に待たればならぬのである、それて西洋の歷史を見ても之が一目瞭然てある、十六世紀から十八世紀にかけて歐羅巴にも此の風潮が盛になつた、今迄は唯上から押付けられて居つたが今度は其權力に對抗する勢力となつたから、一般の人も覺醒して來たのてある。始て斯う云ふ思潮が人民の間に湧くやうになつたから人間の價値と云ふものが段々と會得されて來た。斯ふ云ふ事になるのは人智が進んで來たのてつまり敎育が進み自由の思想が漲つて來た現象てある。今迄は歐洲の人民は唯上から押付けられた丈けてそれを淩がうともせず押し付けられた儘てあつた、一向に自由とか獨立とか、自覺とかになかつたのてある。

▽佛蘭西革命の起原

人民の朦昧なるにもせよ、今迄は上から壓迫され威嚇されたので自由の意志の尊重などは一向に知らなかつたのである、自由の意志で自由に生活する世の中である。歐羅巴では此の思想が動搖して著しくなつたのが遂に佛蘭西に大革命となつたのである、之は個人が自覺をする樣になつたから唯義務といふのみに滿足せず人としては此の世に棲息するには、斯く〳〵の權利があるものであると云ふて法律丈けて押付けられぬ吾々は斯く〳〵する事を得ると云ふので勃然として此の思想が深く民人の腦頭に刻まれた、其の結果が佛蘭西革命となつた唯命令せられるよりも一般人民の頭腦には物事に自覺して斯く云ふ事をする事を得ると云ふ一つの考となつたのは恰度革命前の人民の思想であつた、人が此の世に生れると斯ふ云ふ權利があり又斯ふ云ふ義務もあるかと云ふやうになつて從て法律もさう云ふやうに國家の組織、社會の統一の上にも考へて制定するやうになつて來たのである。從つて法律の書き方は從前と打て變つて來たのである、それが佛蘭西民權の根本となつた有名なるナポレオン法典てある之が今迄の歷史にも影響を受けるやうになつたのである。法律としては日常生活の上に最も必要なるものは民法てある、民法は政治的にも經濟的にも、思想的にも關係があつて人民の權利方面の擁護と

なつて居るのである。之れが十八世紀から二十世紀少し前に於て個人の自覺が發達した爲め遂に斯様な活動となつた。

それから風俗の習慣をも改め個人として何事にも自覺を有たねばならぬと云ふ風になつた、それでは此の自覺と云ふものは何を意味するかと云ふに、自分は何をして居るかと云ふ事である自分を知る自覺である、唯自分を知ると云ふても内からも自覺しなければならぬ、外からも自覺をしなければ唯、自分本位であつてはいかぬ内外より自覺をしなければならぬ。内からの自覺とは内容、即ち意思の自覺である、此の意志の自覺で以て人を導かしめていかねばならぬ。此の内容の自覺は偉大である之は尊重すべきものである。即ち人格を作るのである言ひ換へれば人間の價値を作るのである、それから又此の人格を外の方面より見なければならぬのである。

自分は今、何う云ふ位置に立つて居ると、宜く考へればならぬと同時に他の人は何う云ふ位置に立つて居ると云ふ事をも考へればならぬ。即ち位置の自覺である。之を完全にし適當にしないと自らをも誤り人をも誤るものである。人は自分の位地をもかへりみずして他を批評するが、寧んぞ知らん自己を省みれば赧然たらざるを得ない、自己を省みぬて他を批評する、自分は今何をして居るかと云ふ事に考が至らなければならぬのである。それで歐羅巴方面では十九世紀、二十世紀頃は自己を知る自覺が熾んになつて、遂に其結果は自分は生れ來たからは斯ふ云ふ權利がある、又斯る義務があると云ふ事を考へたが原因で世界を震撼するやうな佛蘭西大革命となつた。

▽共同生活が問題の基礎

ナショナリズムは元個人の集合團體である。インターナショナリズム即ち國際主義は國家を組織して居ればそれが國際的に關係していかねばならぬので、其の根本は各個の共同生活より來て居るのである、換言すれば共同生活が圓滿に行はれて居れば社會も健全であつて、其國家も健全であると云ふ事になるのである。つまり國家主義と云ひ、國際主義と云ふも其の源は各個の共同生活に端を發して居ると斯う云ふ事を申したいのである。國家主義と云ふても、國際主義と云ふも其の源は個人的共同生活にあるので私はさう大きくは云はぬ。唯、各個人の共同生活が根本であると云ふ事を述べたいのである。それで共同生活と云ふものは政治上にも、經濟上にも影響を及ぼして來るから此の共同生活を立派に營むを得ば人間の價値と云ふものが出て來るのである。それで此の共同生活なるものは大切なるものであつて之が段々と進歩して來れば健全なる國家となりて、國際的親睦も出來る事となる。

獨逸のギルベル博士が云ふた言葉がある、それは「人と人との結合は共同生活にあり」と。然るに日本では未だ本當に人間は共同生活に依らねば一日も世の中には立つていかれぬものである。此の思想が一般に徹底して居らぬやうである。自分一人が如何に威張つても獨りては世の中に立つていけぬ誰でも世話になつていかねばならぬものであるから、共同生活は一日も缺くべからざるものである。では吾々は如何にして此の社會生活を圓滿ならしむるかと云へば、各個人は少くとも道徳心を涵養して相互に接觸しなければ共同生活を圓滿にする事が出來ぬ。各個人の利益は社會、國家の利益になる、又に儲け事あれば自分のみ壟斷してはいかぬ、利益其物は各個人に分たなければならぬ。自分許り利益を貪らず社會全體の利益のためにする、さう云ふ義務を自覺し、そうして社會全般の圓滿は期せなくてはならぬのである。

▽英國の大學と日本の大學生活

私は倫敦の大學に居つたが、日本の大學などでは入學式が

あると總長が出て訓示演説をする。それは殆んど形式的てあつて學生は怠つてはいかぬとか勉强する樣にし、品行を誡しめ、立派に社會に出て、仕事をしなければならぬとか云ふ事は型て定まつてゐる、倫敦の大學てはさうてはない、總長は決して品行を宜くして學問しなければならぬとか、さう云ふ事は決して云はぬ。皆さん學校に入つたなら互に交際をして圓滿な生活をしなければならぬ。コンミニチー的に學生は入學をしたなら共同生活を盛んにしなければならぬと云ふ事を教へるそして此の學校內には機關として何々倶樂部とか、何々會とかあるから、皆さんも斯う云ふ會に出席して互に圓滿に修養しなければならぬと說く。即ちコンミニテー的共同生活をすると云ふ事が、入學の第一義てある、それて私も平生斯う云ふ觀念が起る。他の科の生徒は何うてあるかは分らぬが。私は大學ても法科受持てあるが學生等は講義を聞き終ると直ぐ歸へると云ふ有樣てあつて、何の樂もない甚だ冷淡な殺風景な感じがするのてあつて、殊に英國の溫い共同的生活に比べて、落莫の感に堪えぬ。

▽朝鮮問題も共同觀念の缺乏から

國家は個人の集合てある日本の國家組織は健全てあるから將來と雖も決して變はるやうな事はないと信ずるが、此の國家をして發達せしめ、國體の精華を發揚せしめんには、國民は互に共同生活をして圓滿に眞率に向上せしむる責務がある。個々の自覺があつて共同の力が强ければ隨つて團體の力は强くなる、國家の權力が加はると他國に對しても、日本の威勢は認めらるゝ事となるのてある、之れがインターナショナリズム、マインドとして一般に注意を惹くのてある、故に國際主義と云ふも他の國家が集つて互に共同して國家の幸福を增進する爲めに、國際的に交誼を結ぶと云ふやうな事になるのてある、先般、突如勃發した朝鮮騷擾事件なるものも、畢竟日本に併合された朝鮮と見るから間違つて居るのてある朝鮮問題は私はさう難かしい問題てはないと思ふ。朝鮮人と見ずして日本人てあると見さへすれば間違ひがない筈てある何んとなれば、さう云ふやうに區別をするから不快と思ふのてあつて、事端を發するやうになるのてある。朝鮮人も日本人てある、日本の人も朝鮮は併合された土地てはない日本の土地てあるから朝鮮人も日本人てあると、斯う思へば等しく日本人と云ふ立場てあるから不快もない筈てある。それから朝鮮人に限つて差別を設けると云ふ事てはいかねから總て何事も平等にして朝鮮人と共同生活の實を擧ぐるなら不平不滿はない筈てある。此の點は爲政者と云はず、何人も注意反省しなければならぬと思ふ。私のナショナリズム及びインターナショチリズムは結論に於て成立つか成立たぬか、自分としては國家主義と云ふものは、其の實個人の集合團體が完全なる共同生活を遂げる爲めに鞏固なる國家の組織を必要とするのてある、其の根本は共同生活にある、又國際主義も國と國との交際が圓滿にならねばならぬ。今日世界の趨勢上孤立などしては一日も立つ能はざるものてあるから國際的交誼も必要てあつて、有無相通じ長短相補ふて、人類共同の生活を安全幸福ならしめなくてはならぬ。（文責記者）

僞善虚僞形式生活の打破

廓清會評議員
三輪田女學校長　三輪田元道

▲急務は國民を打つて一丸とする事▼

▲生活上の無駄と形式主義の僞善▼

今日は所謂生活難といふ聲が到る處に聞ゆる。けれども之を善く導けば社會進歩の動機になるかも知れぬ。之に反して此儘騒いで居れば人心の不安を來し、如何なる大事件となるか分らぬ。進むか退くか、今日は實に日本の關ヶ原である。之が爲めには官民共に力を注いでゐるけれども、是迄の樣に官僚といふ樣な區別があるのは、どうも社會の大勢を支配して行く事は出來ぬ。たとへば一省の大臣が訓令を發し紙の先に何が書いてあつても、新聞の號外程にも感じない世の中になつて來たのである。故に政治家が法律制度を改めさへすれば、天下は思ひの儘になると思ふた時代は過ぎた。之に反して又民間の輿論も、政府の役人といふ樣な人が之を妨げなくても、冷淡であつたならば輿論の實現は困難になる。そこで今日の問題は、國民又は國家といふもの又個人を打つて一丸とすることであり、が社會共同生活の一員たる自覺を持つことである。日本人が日本を救ふのは一大義務であるが、衣食共に之が國の問題であるといふ考を起させたいと思ふ。之に就て平素我々の注意してゐるのは、生活上に無駄がある。それは形式又は僞善から來たもので、是非之を打破して行かねばならぬ。

先づ手近の例を擧げて見れば、我々は他所へ使物にするに鰹節の箱を買ふ、大きなもので如何にも見て體裁がよい。併し中は藁を敷いたり高く底を上げて實質を少くして、外觀を良くする爲め非常に損をしてゐる。あれては大き過ぎて人力を雇はねば持つて行けぬ。それよりも人力に乘るだけの代を餘計に詰めて送つたらどうであるか。之は誠に愚の至りで、五十錢の菓子箱などは今日は十錢以上箱代にかゝる。それより箱を惡くして中身をよくしたらいゝてはないか。斯樣に外觀のみを飾るといふことは親切のなきやり方で、我々は實質に重きを置く習慣を作らねばならぬ。虚僞を打破して眞の生活をするといふ風に風俗習慣を變へなくてはならぬと思ふ。

此間も或人に聞いたが、菓子箱がよく旅行する、甲の家に行き、乙の家に行き、更に丙の家の處に行く。人樣にほんとに味はすなら、古物はお氣をつけ遊ばせとこそいふべきである。にも不拘、知人間友人間に旅行し、人樣に物をあげるのは唯目に見せて通り一片の御挨拶に過ぎぬ。虚僞僞善の爲めて、之は早く眞實といふことにならればならぬ。

▲ツヤが芋飯は虚僞の社會の代表▼

▲藝妓が丸帶の道出と同一の虚僞▼

それから食物に就ても日本人は非常に手數をかけることを何とも思はぬ、勞働の安かつた時の遺習で、今

日の如く勞働が高くなると日本料理の如く手數のかゝる調理は、高くてまづいものに定まつてゐる。故に無暗に勞働をかけぬ様にしたいと思ふ。大根や人參を態々梅の花に切つたからとて、別段味に變りはない。誠に手數な話てある。刺身のつまなども、あんな物を食べてゐるのを見たことがない。食へないものに金を捨てるのは愚の極てある。おすしの熊笹なども、消毒もしないて、山から馬に乘せて持つて來たまゝてある。敵國人に食はせるのならいざ知らず、不必要を通り越して危險てある。

近頃政府は一萬圓もかけて馬鈴薯飯の奬勵といふ様なことをやつてゐる。之はいゝことてあるが日本人全體がいゝ事だとして早速實行するとしたら、馬鈴薯の値は忽ちにしてダイヤモンドの如くなるてあらう。眞實に馬鈴薯飯を國民に食はせる積りなら、同時に其の植付の方面も奬勵せねばならぬてはないか。實行しては困ることを奬勵するのは行はれぬことを豫期してゐるといふ矛盾に陷つてゐる。ほんとうにやるなら植付もやらせなくてはならぬ。けれどもこれは既に十年前に我々が對手にしなかつたもので、それを今頃また東北の田舍から婆さんを引張り出して宣傳させるなどは實に馬鹿げてゐる。此の馬鈴薯飯の焚き方は細かく切つてそれを二時間も水につけておいて御飯の中に入れる實に手數てある。その上之は早く腐る。佐伯博士は水につける爲滋養分が半分は溶けて無くなると云つてゐるが、私達は外の意味から反對てある。それよりもほんとうに馬鈴薯を推奬するのなら、飯を三杯食ふ處を二杯にして、馬鈴薯は馬鈴薯で別に煮て食べればいゝてはないか、それ位の克己が出來なければ食はぬ方がいゝ。馬鈴薯を細く切つて米の中に入れて、馬鈴薯を米の積りて食ふなどは餘りに自ら欺く虚僞てはないか。日本には昔から豆飯もあれば芋飯もある、ジャガ芋はジャガ芋のまゝ入れて煮てもいゝてはないか。人を欺けば詐僞罪といふがあるけれども、之などが自らを欺く虚僞の社會の代表てある。

以上の様な事が男女關係にもある、私は老母を伴れて箱根へ時々出掛けるが、お客が藝妓に丸髷を結はせコートなどを着せて伴れてゐる。暫くは温和しいが、やがて懷中鏡を出して人前て化粧をする。遂に巻煙草を出して吹かす、變な手つきをする。忽ちお里が知れるので、それて宿帳には何々夫人となつてゐるが、之れなども馬鈴薯飯の方て、欺く能はざるものを欺かんとするのである。形式主義虚僞僞善の生活である。

◀僞善のお世辭、僞善の禮儀▶

◀食膳庖厨の驕りは社會の賊▶

日常の挨拶も其通りて、或人がお寄り下さいと、いふから寄つたら、今日は煤掃きだから歸つて呉れと云はれたといふ。之も寄らぬだらうと思つて虚僞のお世辭を言つたのてある。正直に寄つたら追拂はれるといふのは如何にも手數のかゝる生活てある。

死んだ處に香奠をあげるにも、ほんとうに線香抹香を捧げる爲めなら、其の返しを餘計にするのは手數の話て、香奠をやつたのにお返しが來ないとぶつ〱いふ。五圓やつて二圓五十錢のお返しを貰ふ氣なら、始めから二圓五十錢包んでお返しを貰はぬ事にした方が手數がなくていゝ。

人には誰しも同様の關係が發生するものであるから、香奠を貰つても貰ひきりてはない。其時に返禮しても遲からぬ。かゝるあしき習慣は全部改良するといふことは實際問題として必要なことてある。

衣服なども隨分欺いてゐる。外に見える處には金ピカを飾り、實は寒さに慄へてゐる。衣服を身の爲めてなく人の爲めに來てゐる觀がある。人間がほんとう

に解放されたら自分の身を保護するといふ事を第一にする筈である。昔インチヤンが、雨の降る日に衣服を脱いで之を小脇に抱へて驅け出した。何故そんなことをするかと聞いたら、自分は奴隷だから身體は人の物だが、著物は自分の物だから濡らしては損だといふたとの話がある。之と同樣の考が今日の人にも大にある家屋の如きも我々の生活の仕易い樣にすればよいのに、外觀をよくする爲めにどれ程不便と不經濟を忍んでゐるか分らぬ。

日本人はまた初物を食ふを見得とする妙な癖がある。もう幾日か待てば充分生熟し成長するのに、態々高い金を出して初物を食はうとする。成育して居らぬから小さい。從つて餘計に食はなくてはならぬ。之亦實は國家の爲めに大問題である。自分が初物を食ふ爲め他人の分量迄喰込んで了ふ。即ち初物食ひは食糧問題の矢釜しい今日反社會的行爲で、他人に迷惑を與ふるものである。之が僅の虚榮の爲めであるのだから、斯かる惡俗は速に打破しなくつてはならぬ。個人が食膳庖厨の驕りを極める位は、其人の自由だと今迄は思つたが、國家全體を背景とすると、奢侈贅澤皆罪惡といふ事が分るのである。

▲男女關係の不純と煙突の問題▼

▲所有に關する法律觀念の變遷▼

男女の關係も然りて、今迄は男女の性的關係も個人の私事で、當事者お互の合意でさへあれば、何等差支はなかつたが共同生活の自覺、社會の中の個人といふことを考へて來れば假令合意の上であつても害毒を他に流す行爲は之を嚴に排斥しなければならぬ。さうでなければ社會の平和幸福は得られないのである。今日迄の日本の男女關係は、形式から云へば一夫一婦になつてゐるが、實質からは一夫多妻的である。社會を男女同數と假定すれば、一人にして二人以上の女を妻同樣の關係に置くとは、他の男子に不足を來すことになるから、丁度食物を營養以上に人が取れば他の人に不足を來す樣なもので、男女關係に於ても人類の爲めに大罪を犯すものである。糸竹管絃で自分が勝手に自分の金を消費するのも、決して個人の自由ではない。今日は煙突などを立てるにも、近所隣の迷惑をさするは社會問題となる。煙突の有形な煙が社會問題になるなら、最も不純なる男女の關係が結ばれて、其淫聲が外に洩れ忌はしき動作が明に人に見える藝娼妓に親しむ行爲は、煙突以上の大問題でなくて何であるか。況んや何萬といふ人が不潔なる男女關係を結び、尊き人間を動物に引下げて生活をしてゐるといふことは、我々は煙突以上の大問題として、上下擧つて研究し速に救濟を期せねばならぬではない乎。

今日迄は占有又は所有といふことを萬古不易の樣に思つてゐた。併し之から先の法律觀念は占有及所有といふことの根本基礎が變り、いつても社會を背景として、それから所有といふことを假りに許すのである。所有占有は畢竟絕對的でなくて相對的のものである。倘世の中が變遷すると愈々制限を受けるだらう。故に在來の我々の道德觀念といふものが、改造されなくてはならぬ。要するに我々の生活には、虛僞、僞善、形式が非常に多いそれを打破して眞實なる理想の上に立たねば、物價問題生活問題の喧しき今日、特に幸福なる生活を營む事は出來ないのである。

曾て廓清會の集合でも話した事であるが、大臣就任の披露には『不肖過って大任を拜し』といふのが恒例になつてゐる。併し過つて國務大臣などになられて堪るものか。又自ら不肖と思ふ位なら大臣を拜辭すべきて、這麼事は御當人は謙遜の美德の積りでゐるが、皆虛僞である。我々は早く之を打破するのが急務と思ふ。

食糧政策としての節米

農學博士　稻垣乙丙

糧食問題の解決至難たる所以　二十年來農家人口は殖えず

今日糧食問題が喧しくなつて來て米價は日増しに騰貴し生活が不安の狀態となつて來た。之れには種々の原因あらうが近時國民が何れも米食一方にのみに傾き混合米さへ食べなくなつたのも其一因に違ひない。此際皆米のみに執着すると云ふ事では、其の供給に多大の不足を生ずる事は免かれ得ぬのである。是迄我國では數千萬石の雜穀、蔬類十數億萬貫の薯類を生産して居るから優に米の不足を補ふて居つたのであつたが、大戰の影響に依つて經濟界が順調になつてから混合米を食べずに何れも白米一方のみ食べるやうになつた。それが爲め米穀が不足となつたやうな譯である。一概に雜穀〳〵と云ふと何んだか、富貴の人などが輕蔑するやうではあるが、決してさうではない。而かも雜食は經濟的であり且つ變化に富んで居て營養にも宜いから身體の健康にも宜い譯であるが。惜哉、我國民は未だ十分に之が利用の方法を知らない。唯、一概に白米の極上のみを望んで食べるやうな贅澤であるから米穀も自然に不足になる、從つて外米輸入も已むを得ざるのである。國民は少しく自覺して食糧品の增殖を圖ると共に又內米の節約に勗めて白米を十のものとしたら必ず其の三割は雜穀薯類とか又は澱粉に需めて米に代用していくやうに考へればならぬ。それで是等の代用食を調製して之を美味にして國民の嗜好に適したなら白米もさうは不足しないで調節も宜く出來るであらう。調節其の宜しきを得れば米價もさう昂騰しないと思ふのである。

一體日本の人口は年々七十萬位は增加して居る。明治七、八年、九、十、十一此の五ヶ年の統計は分らないが廿六年以來は殖える一方で急速に增加して居る。其中、農業に從事して居る人の數が明治二十年頃より次第に減つて居つて丁度日本全國で云へば五百三十萬位である。其の後も段々と減つて來る傾きがあつたが、此の二十年來は何うであるかと云へば大體を通じて增減ないと云ふ事である、然らば人口は如何に增したかと云ふと、農家は少しも增さない。二十年來農家は殖えて居らぬのに、年々七十萬近くの人間が產れるから今日のやうに糧食問題も喧しくなつて來たやうなものである。然し農家の方でも、水田の反別とかゞ增加して居るが成程不毛の地を開墾したり、山の邊などは畑にしたりしたてあらうが、又他方に於て道路に利用されて潰地となつたり建築要地の爲めに幾らか潰地になつたりしたから差引田地など餘計に潰れて居ると云ふやうな有樣である。それから又年に依つて豐凶あるから年々是丈けの收穫があるとは豫想が出來ない、一朝凶年にでも遭ふたらそれこそ大變である、それから肥料をも要するので今日の農家と云ふても却々資本が要る譯である。豐年なら宜いが不作になつたなら農民の不幸のみならず、國民が高い米價に苦まればならぬのである。

日本國民に對する糧食不足の徴候は既に二十年前より

それで米に對しては今日上下を擧げて研究もし調節もして居るが、一體明治の中頃より糧米不足の徴候は現ばれて居つた。近頃こそ急激になつたやうであるが其の徴候は既に業に現ばれて居つたのである。一人當りの消費量は明治三十五年頃既に平均六斗位となつた急激に人の數が殖えたからである田舍の養蠶家と云へば盛んに儲ける。一般商工業家は大戰で大金を儲ける。そこで彼等は皆農業をせずして米を食ふ。又田舍の青年も朝夕田畑に從事して居るのが厭になり帝都に

どし〳〵と出掛けるやうな趨勢で、田舎に居つた時は白米に雜穀を混和して食べて居つたが都に來ては上等の白米を食べると云ふやうな事て、血氣の青年が斯樣な白米を食べるやうになつたから不足となつて來たのである。二十年前一人當りの消費量は九斗六升平均てあつたが、近頃は一石以上であつて先づ一石八升平均てあるから米穀が不足すると云ふのは當然である。理由とする所は各工場の勃興に伴つて人員の增加に影響して居るので田舎では青年が雜穀を入れ混米して食べたものだが、都に來ては金廻りの宜いので白米常食と云ふやうになる。それから田舎でも此の時局の影響で自然に金廻りが宜くなつて食べ物が贅澤になつて來た爲め、以前用ゐた雜穀を廢して何れも上米を食べると云ふ事になつたから斯くは米穀が不足になつて來たのである。それからまた一つは歐洲大戰に就て我國より澱粉を始め餘多の雜穀を海外に輸出した、日本の小麥とか、又は澱粉にしたもの、豌豆、小豆斯んなものまで盛てんに外國に輸出された、澱粉を含んだもの何の位外國に輸出されたかと云へば概算ではあるが八十六萬石以上である。其中米穀は三十三萬石、豌豆でさへ十二萬石、小豆二萬石、それから澱粉として四十四萬石であつた。斯う云ふ多量な小麥其他が輸出されたのであるから日本でも澱粉が不足したのである。且つ輸出のみであつて輸入が少しもなかつた。大正七年度など米穀が三百十四萬石程不足したのであつた、前年六年度よりも不足したのである、斯の如く澱粉を含んだ雜穀も輸出したから結果は何うかと云ふと田舎は金廻りが宜くなつたが人民は一般に米穀不足と云ふので苦痛を感ずるに至つた。彼の甘薯を持つて居た農家でも、それを賣つて米を買ふと云ふ有樣である、薯を賣つた方が却つて金が儲かるのである。私は本年一月であつたが澱粉類丈けでも外國に輸出禁止したいものと當路にも協議したが、今日の場合輸出禁止が出來ないとなつて了ふた。私は澱粉と云ふものは大切であつてそれを輸禁すれば米穀の代用品にも障害が起るからと云ふたが、到頭駄目になつたのである。地方農民も金廻りの宜いから米價が安値ては賣放たずと云ふ一般の趨勢てあつて、之は昨年の高値の記憶もあるから今後の暴騰を豫期して賣惜むと云ふ有樣にも見える、それて地方農民の在米賣惜みの爲めに米價をも引上げると云ふ傾きがあるから、之には何んとか適當の法を設けて農家の賣惜みに對する防壓手段を講ずる必要がある。それから何うしても、刻下の食糧問題の危急を救はんとするには前述の如く節約して内地米の消費を減ずるやうにするのてある。それには輸入外米のみに焦らずして小麥、麥何んでも雜穀をして内地米に代用するのてある。殊に今日の實情は外米産地では價格騰貴して折角輸入しても餘りに高價なれば國民一般之を買つて食べると云ふ事にならない。さうして今日の外米は餘りに豐富と云はれず隨つて價額も比較的に廉價でないから、私は今日の場合代用食奬勵をしたいのてある。若しさうてないと、一方内地米の消費量が盛んてあれば、遂には前述べた通りてあつて國民が困る事になるのてある。

節約米の方法としての調査に留意せよ營養上半搗米は實益

それて問題は人口增加に連れて米穀が不足して居るからして、一般國民は節米の方法を講じなければならぬ。それには朝食若くは晝食を米なしにするか或は又毎食に雜食をなすか、それとも常に混合炊きにするか何うにかしなければ此の問題の解決が難かしくなるからして注意すべきてある。夫から澱粉は營養の最大要素てあるから炊飯するに當つて之を外米、臺灣米、陸米、半搗米等に混用すれば啻に養分を增すのみてなく大に食味をも向上するのてある。澱粉は米粉とか小麥粉等と混じて炊くには蒸氣炊ならば、最初より混合して宜いが若しも普通の釜炊ならば先づ普通の如くに炊飯し其の炊き溢るゝ時に、別に粉を解きて糊にせしものを注加し速かにかきまぜて蒸すと釜の底の外側に一枚のブリキ板を當て置き其の左右には針金を附けて之を釜の鍔の上に出し把手の用をもなさしめるから、ブリキ板を當てれば其の下より焚くも決して焦げる憂ひはなく飯しもフーワリとなつて旨く食べられるから、之を實驗して欲しいのてある。それから混米に就ては大麥とか、裸麥は挽割又は壓麥として米に混じて多く用ゐるやうにしたいのてある。小豆、虹豆、栄豆、豌豆、大豆類も又之を挽割にし又壓し潰して米に混じて炊くやうにしたい殊に赤小豆と虹豆とは半搗米に混炊するも宜いさうすると旨く食べられる。それから混用米に就ても、小麥、蕎麥、玉蜀黍等は麵類即ち饂飩、素麵等に用ゐる方が宜いのてある、それは是等のものを粉にして之を混用するも可い譯て、甘藷、馬鈴薯等は細く切つて米に混和すれば宜い人造米と云つても馬鈴薯、豆粕、麥粉より製するもので是等も混炊に宜い米は成るべく半搗米を用ゐた方が宜い營養上に宜い許りてなく搗減りを少くする譯て、混砂搗の白米は洗ふに當つて多量の澱粉約百分の五位は井戸端で洗ふ際に流失して了ふものてあるから之は注意すべきてある。

學理を應用し增收米を圖ると同時に節米方を講ずるに在り

それから今日斯樣な米穀不足で困つて居る急場の際に、通例健康の身體であれば十三、四貫目位の體量であるが。此の身體に見積る營養として炭水化物を何う攝取するかと云へば男女三十歳より四十歳までは尠くとも大抵百匁から百五匁位を取らねばならぬのである然らば此の營養物としての炭水化物の百匁は何うして取るかと云へば、此の澱粉を米より得やうとすれば三合六勺一才の米が恰度澱粉百匁を得られるから、今假りに全國の人民五千五百萬人とすれば約七千二百四十七萬貫の米を要しなければならぬ、所が最近平年作で米の收穫は內地で何の位出來るかと云へば五千五百萬石位出來るのである。之を日本現時の人口に割當てゝ見れば非常に足りぬので、昨大正七年などは東京市のみで三百六十四萬石の消費高であつた。固より之は統計の上であるが正確のものと見て、東京市のみで白米の消費は斯樣に多數であるから全國を通じて白米は如何に喰ひ盡されたかと云ふに全人口に對する八割丈けは米穀が間に合ふにしても其の二割丈け不足して居る故に此の二割は節米で補給しなければならぬ、一體田舍の農家の勞働者は一日一人當り八合は必ず食べる、勞働者以外はさう食べぬが、何うしても其の不足は甘藷、裸麥、小麥、馬鈴薯、粟、玉蜀黍、麥蕎、黍等の雜穀で補つていかねばならぬ。今日の狀況であるが、事實は然らずして今日田舍の農家でも雜穀を食べないで競うて白米を食べると云ふ有樣であるから食糧問題は却々喧しくなつて來たのである。內地でも所々開墾を遣つて居り又朝鮮などでも田地に改良を加へて盛んに增收の方法を講じて居るから是等の改良方法が宜しきを得ば、さうは米穀不足ではなからうとも思はるそれ迄は米は七割に雜穀三割と云ふやうに遣つて居らねば米穀が不足するから注意せねばならぬ。私は平生『米七雜三』と唱へて何處でも斯う云ふ主義で講演をして大に節米を皷吹して居るが、西洋人は日本の米穀を批評して不思議に云ふて居る、一體食物には變化がない、朝から晩迄同じ食物であつて調理法を替へて遣つたなら旨く食べられるだらうと、同じ食物許りでは旨くあるまい時々に變化させるやうにしなければならぬ。何うしても從來の習慣は惡いやうであるから少しづゝ改めるやうにしたいものである。さうすれば不味なものを味宜く食べられる營養の點に於ても滿足出來やうと思ふ。それから外米を少しづゝ食べるやうにしたら何うか之は工場の寄宿舍とか多人數の居る所では是非共外米を利用するやうにしたい、之も炊きやうに依て多く食べられるから適度に食ふ事に改むる必要があるそれから近時飯に馬鈴薯を入れて食べる事が實行されて居る、之は至極宜い是非斯樣の奬勵を一般的に勸めたいのである。それから色を附けて飯べるのも宜い、それは何うするかと云へば小豆などは低廉であるからして小豆を入れて赤飯にして食べるのも宜い、ちよつと外觀はポロ〳〵して居つて食べ惡いとか云ふ時には脂肪や、澱粉のやうなものを入れゝば宜いのである。兎に角今日の糧食問題に就ては金があつて何に白米が如何に暴騰しても差支へないと云ふやうな事でなく金があつても私の唱へた『米七雜三』卽ち米七割雜穀三割を混ぜて食べると云ふやうにしたいのである。さうすれば營養が惡いかと云へば決してさうではない。世間で外米は蛋白質が含んで居ないやうに思ふ人があるが決して白米に比較して大差ないから外米を奬勵したいのである。さうして之は內務省保健課で調査したのであるが何の位一ヶ年に米穀其他の收穫あるかを申上ぐれば次の如くてある。

品名	生產額	含有炭水化物量	生產額に對する割合
米(玄米)	二〇、九〇〇〇	一五、三三六一	七五、九パアセント
甘藷	二〇、五五〇〇	二、一六二八	一〇、八 〃
裸麥	二、九六〇〇	一、八九一四	九、四 〃
小麥	二、三二〇〇	一、四七四一	七、三 〃
馬鈴薯	二、五五〇〇	五、二七九	二、六 〃
粟	五六〇〇	三、二一四	一、六 〃
玉蜀黍	三二〇〇	二、一九二	一、一 〃
蕎麥	三七〇〇	二、二〇一	一、一 〃
黍	一五六〇	七三三	〇、四 〃

斯の如き統計の示す所であるが、此中酒造石數の三百萬石を差引けば七一、七八パアセントであるが、又輸入移入の米穀合計六百五十五萬石を加算するも八〇、七パアセントである。現時平年作に於ける米穀五千二百萬石を若しも平等に國民に割當る時には一日に付き一人の前玄米にて二合五勺九才である之を白米にすれば二合三勺三才になる譯である。今若し男兒が十三、四貫の體量あるものが勞働に從事するものが何う云ふ風に營養物を取るかと云へば、炭水化物百二十匁、蛋白質二十四匁、脂油五匁五分を要する事になるのである。それて今日の人口五千五百萬人に對する炭水化物は二十億七百五十六貫目を要する之を米糧より得るとすれば玄米て七千二百四十七萬石を要する勘定になる兎に角今日は糧食問題としては節米方を取る外ないのであるから宜くし國民をして節米に傾かしめたいので爰に繰返して云ふのであるが私は飽く迄も米七雜三を奬勵してもらひたいと思ふのである。

洋畫の見方

石井柏亭

□洋畫は汚いといふ非難は何故□
□離れずに近寄つて見て欲しい□

我等は平生より洋畫の見方に就て質問を受ける。また素人の苦情なぞを聞く、今日はその苦情に對する申開きをして旁々見方のお話をして見やうと思ふ。

どういふ苦情かといふと先づ第一、洋畫といふものは汚い何だか汚ならしいといふことを聞く。汚いといふことはどういふことかと聞くと、先づ平てないといふ、盛上つてゐるといふことだらうと思ふ。不揃な繪具の固まりがくつ着いてゐるといふことになるやうだ。併し之は凡ての外の物にして、平てない物、汚いものとは云へぬ。工藝品などに隨分平てないものがあるが、汚いとは思はぬ。そして見ると盛上つてゐる内にも綺麗と汚いのとの別があることになる。即ち盛上り方による。旨い人のはいくらザラ／＼になつてゐても、汚いとは思はぬ。日本人のやつてゐるものでも、汚いものとは感ぜない。如何にでこぼこしてゐても、盛上り方によつて汚く見ゆるのと汚くないのとある。それから色が萬遍なく濡れてゐないことも汚いと思はせるやうだ。それも又同じやうにむらがなくて好い畫もある、むらがあつてもいゝ畫もあるから、又それだけて汚いとは限らぬ。結局汚いといふ感じはやはり素人方の淺く見て居られる結果だと思ふ。

聯關しても一つは自分の畫を人が見て居るのに、も少し近よつて見て呉れゝばよいにと思ふ程、遠い處から見て、非常にいゝなどゝいつてゐる。かういふ褒め方は我々にとつては難有くない。もつと近寄つて筆癖などをやはり見て貰ひたい。一體畫を見る適當の距離は通常其額面の對角線の三倍離れるといふ事になつてゐるから大きさによつて異るが、要するに畫面が奇麗に見えるといふので遠くから見るのは、眞の畫の見方でなく味ひは見えなくなる。唯圖取りだけしか分らぬ。

□眞に迫まるのが畫の目的でない□
□未來派立體派印象派の過激思想□

洋畫といふものはやはり自然をほんとうの様に寫すのが第一の目的と思つてゐる人があつて、遠く離れないと筆の跡などが邪魔になるからだと思ふ。それも見當違ひて眞に迫まるといふ事は日本畫より洋畫はより多く出來てゐるが、それで能事畢れりではない。自然物の眞に迫る事を努めた時代もあるけれども、今日の一般の洋畫の常識では眞に迫まるといふことは問題ではなくなつた。つまり日本畫を見ると同じ心持で見ていゝのであるつまり筆使ひがいゝといふことを見るにあるのである。

西洋畫では殊に近頃眞に迫まるのはつまらぬ事と思ふ様になつた。之は東洋畫の影響を受けたのだらう。藝術といふものは外にあるといふことになつて來た。殊に歐洲大戰爭前隨分極端に肉體派とか、未來派とかいふものが起つたが、之は單純なものでなく可なり色んな革命な分子を含んでゐる。從來の洋畫の形を壞すといふ虛無的な思想及び自然物を眞に寫すのでなく、態とあり／＼と見ないといふ樣な、又今迄の美しい色を使はない。なるべく汚いと思つてゐた色で畫くとか、又餘り今迄のは丸つこく、滑つこいから角ばらして刺戟するといふ立體派が出來た。また元來畫といふものは平面のものだからほんとの丸いものでないから、どうせ一面しか畫けないのなら見えない處はどうでもいゝぢやないか、といふので前から畫いてあるかと思ふと、お尻を畫いたり、後向の繪にお乳を描いたりする。それから少し無理だと思ふが、伊太利人が始めた未來派は、かなり、文學がゝつた處もあり、甘い處もある。印象を尊ぶといふ方もある。假へば畫家が或人を描く

のに、其人の頭が光つてゐてそれを強く感じたからと云ふので、光つてゐる處だけ畫いて後は畫かないで抛つておく。或は女の片方の眼だけ深く印象したといふので女の顔を畫いても片つ方だけしか眼を畫かないと云つた樣な、少し突飛で同感することが出來ない。併しさういふ極端な中にも尤もな處もある。それは眞に迫まるといふことは餘り必要なことではないといふ點て、東洋畫の中にもほんとうらしくないものがあるが、それてよいものがある。同樣に洋畫も眞に迫まつてゐるといふことは重要でない。今日てはそれはやらうと思へばやれる。けれどもやらないのてある。序に割合に出來てゐることもあるといふに過ぎぬ。

□詩的ならざる畫材を好て畫く理由□
□洋畫には何の思想もないとの非難□

も一つよく出る苦情は規模が小さい思想がない。唯テーブルの上の林檎を畫いたりキューラスの瓶を畫いたりすることは何の思想もないぢやないか、風景にしても詩的なやうな自然でなく、ぼつ壞れた田舍家や田甫など畫いて喜んてゐるぢやないか、西洋はそんなことはないよといふ。併しそれは美術を特別に熱心に見に西洋に行つた人てはなくて、外の仕事の序に一寸覗いた人の批評てある。一體外の專門は餘り素人が口を出さないが、美術は誰でも口を出すので間違ひが起る私達から云はせれば、西洋の畫だつて『何だあんなものを褒めて』と一向へこまないのてある。それはかんいゝところが違つてゐるからで、非常にこつたに見て來て、ラファエルやミカエロなどを見て君等のと違ふといふけれども之は時代が違ふのてある。やはり今日の人の畫と比較して異れゝばよいが、例へばエルサレムにある戰爭畫などを見て來て非常に吃驚し、大したものだといふ、それは確に或點からは大したものだらうが、我々は違つた方面に行つてゐるからそんな物と比較されても仕樣がない。今日ては歷史上の事柄を示す畫とか、或は宗教の爲にした畫とかいふものは西洋ては餘り出來ない出來てもさう立派なものはない。つまり宗教畫はほんとうに宗教の生きてゐた時代に限る。日本でも佛畫のよいのが出來たのは佛教の生きてゐた時て、今日てはさういふものは向かぬ。それよりは田舍家でも畫いた方が、畫家には眞面目てある。

思想がないといふことも、畫と文學と混同するからで、文學的思想とか、哲學的思想とかいふことはかういふ處にはない。もつとほんとうに畫といふもの本來の思想があるのてある。それだけで澤山だ。然らば本來の思想とは何かといふと、一言にして云へば色とか線とか形とかに關聯する思想て、つまり畫を見た時人が感ずるのは、色とか形とか線とかに相違ない、それがどういふ風に組合せられてゐるかによつて、巧拙が定まるのてある。其後に人格があるのは勿論だが、見る方てはそれを見るのがほんとうて、素人ても之は好いといふ時にはやはりそれに動かされてゐるに違ひない。唯自分てさう解剖的に考へないからてあらうと思ふ。

英國のホイスラーといふ人はさういふ點て大分世間と喧嘩した人てある。畫題などもあるといかぬ。あると却つて邪魔になる。風景なども何處其處の風景など書かず、寧ろ『青と金』とか『墨と金』とか繪具を題にした。落欵もいけないといふので蝶々の樣なものを端に書いた。それだと邪魔にならぬ。之は實際だと思ふ。さういふ事を人が氣のつかなかつた丈である。之からは確に藝術の爲めの藝術繪畫の爲めの繪畫といふことになつて來やう。

□日本に歸ると畫が拙くなるか□
□西洋人に比して日本は劣るか□

また日本の洋畫は發端が華々しくないといふ攻擊がある。之れも攻擊する方が無理て、洋畫が日本に這入つてまだ日が淺い。幕府時代に這入つたと云へば這入つたのだが、實際は明治になつてからて、西洋人の教師を雇つたのはずつと後のことてある。明治十年頃講武所に美術科といふのがあつて西洋人の教師を雇つて正式に教へた。其後西洋人の教師といふはない。それに第一手近に模範とする物がない。自然を手本として居ればよいとは云へない。さういふ場合もあるが人の畫いたものを參酌するのも必要てある。西洋では美術館に古人の美術品が出てゐるが、日本にはそれがない、洋風畫の陳列などは絕對にない。個人の私藏はあつても公開して見せて異れる處がない。

それから西洋に行つて書いたのは良いが歸ると拙くなるといふ攻撃がある。之は事實である。併しそれははたの刺戟がないから拙くなるのは當然で、殊に日本の東京とか大阪とかいふ都會は非美術的で、美術家に良い感じを與へない。日本のものと西洋のものとごたごたしてゐて調和といふことが丸でないから、平生の養ひといふものがない。さういふ中でやつてゐるのは寧ろ感心して褒めて貰ひたい位のものである。それでは西洋人の畫と比較してどうかといふと、向ふは希臘や伊太利と系統を引いて遺産がある。明暗の調子とか形を見るといふ處が大分向ふの人は出來てゐるが日本人は永年やつてゐても中々出來ない。向ふの人は斯ういふことには少しも苦勞をしないで出來る。だから西洋人と日本人と比較するとそれは日本のは劣る。けれども畫に對する考へはさう遲れてはゐない。伊太利や希臘とは思想では負けてゐない、技巧で負けてゐるだらうが畫に對する根本の考へは進んでゐるやうに思ふ。

□不折氏や片田氏は寧ろ日本畫□
□日本畫の洋畫化は當然の趨勢□

も一つは洋畫と日本畫とはいつ迄も轡を並べて行くと考へてゐる人がある。中にも折衷派は折衷派で行くといふ人がある。併し今度の帝展を見ても分るが、日本畫の中に大分洋畫と同じなのがある。それが今年は餘計に殖えた。畫の思想なり取扱方なりが全く西洋畫になつてゐる。唯繪具が日本畫の繪具だといふに止まる。さうかと思ふと中村不折さんの如きは全く洋畫の思想はない。あの人はなくても構はぬと云つてゐる。あれは唯油繪を日本繪具の代りに用ひただけで、光線なども無視してある。また片田德郎氏の『霹靂』といふ雷様を書いたのがあるが、あれも日本畫に近い。日本人のやつた油繪といふことを考へてゐる様だが、あれが屏風一雙に日本繪具で書けば日本畫の中に入れて差支へないと思ふ。だから行々は一層混雜が甚しくなると思ふ。何處迄も西洋畫と日本畫を區別して續かせやうとしても無理である。それは教育が同じだからで、中學時代迄は同じ教育を受けて、美術學校に入つて始めて別の繪を書くに過ぎないのである。昔は南畫をやつた人は四書五經をやるとか詩を作るとかしたが、今日はさういふ教育は一寸ないから、從つて今後の人が昔の南畫の心持は出ない。また一方に洋畫を見せなければよいかも知れぬが、見ると感化を受けぬ譯に行かぬ。洋畫を見て自然を見ると、自然が洋畫に現はれてゐる樣に見えて來る。正直ならそれが當然で、一旦寫生して超越して壞すといふことはあるが、寫生することに興味を有つて來ればそれが違ふことはないと思ふ。だから若い人の繪があんな風になるのは攻撃する譯に行かぬ。けれどもそれ位なら洋畫の研究をも少しやつたらどうかと思ふ。日本繪具で洋畫臭く書くといふことは非常に困難である。元來日本繪具は非科學的だから繪かきは半分繪具屋をしなくてはならぬ。胡粉など一日も煉らなければならぬと云はれてゐる。併し今日はそんな時勢でなくなつたから、さうした困難と戰つて洋畫臭いものを書くやうなことをせず、一層洋畫の繪具でやつた方がよいと思ふ。されば何處迄も並行して發達して行くとは思はれないのである。(談)

內務省で調査中であつた、貧兒保護法案は、此程、具體的成案が出來た。之れを救濟調査會で決定して愈實施する、其の中、里子や貰子の保護、不良少年兒童遊戲の取締は警視廳でお巡りさんがやる。里子や、貰子が藝者や娼妓に賣られたり、殺されたり、不德漢の毒手に懸るものが少くない事からも此の法案の成立は悦ばしい。今迄大抵說諭放還であつた不良少年の取締は、今後は少年裁判所に懸けた上で感化院が養育院に送ることになる。

選擧界の腐敗

大阪府自治行政講究會名譽講師 金光萬錄

□六年前の選擧界

男女の醜關係が社會の有ゆる方面に惡影響を及ぼし殊に選擧界を腐敗せしむることは、今より六年前の大正三年に行はれたる衆議院議員選擧當時の實狀に徵して最も明かなりとす。人も知る如く大正三年に行はれたる衆議院議員の選擧に際し我大阪府の選擧界は、白晝有志者を料亭に招き藝妓を待らして其歡心を乞ひ、夜陰運動者を靑樓に聘し娼妓を床に添はしめ其應援を覓め、更に一般有權者に對しては候補者と參謀連とが、公然會議を開きて票數、買收價格等の評定をなすなど、實に傍若無人の行動を敢てし、以て有ゆる卑醜陋劣の手段を講じたり。始め深重に構へたる大阪地方裁判所の檢事等も遂に堪忍袋を切らし、大搜索を行ふに至り其結果一千名に垂んとする非違を檢擧し、大阪裁判所始まつて以來の大活動を爲せり、而して其檢擧者の中には九十五名の町村長さへ交り居れり、九十五名と云へば大阪府下の町村長總數二百九十七名の約三分の一なり。豈呆然たらざるを得ん也。申す迄もなく町村長は其品性素行共に地方町村民の模範者を以て自ら任せざるべからず、然るは其全數の三分の一迄の町村長が自ら選擧法を犯して刑餘の罪人となる當時大阪府の選擧界が如何に腐敗し居りたるか思ひ半に過ぎざるべし。

□犯罪の動機

余は當時犯罪の動機が何れにあるかを調査するの決して無用の擧にあらざるを知り、先づ九十五名の町村長に就き其素行、品性、家庭等の調査をなせしに左の結果を得たり。

一　自己に犯意なきも候補者又は運動者より無理に金を懷に押し込まれたるもの、一分。

二　町村長の役德なりと思ひ平氣で金を受取りたる無常識者、一分。

三　家政の不如意より惡しきと知りながら金を受取りたるもの、一分。

四　酒食の慾に惑ひ易き口賤しきもの、一分。

五　平素口入師的魂性を有ち人の爲に無報酬で働かぬ癖のあるもの、一分。

六　妾を圍ひ藝妓酌婦等に醜關係を結び居る者五分

右の表に依る時は犯罪の動機が何れにあるか大概想像し得らるゝなり。即ち妾を圍ひ或は又藝妓、酌婦などに醜關係を結び居るものゝ數其多きを占め居るは、犯罪の動機重に女にあることを知り得べきなり、彼の商家、會社等にありて永年忠勤なりしものも、一朝女の爲に橫領罪を犯し一身を誤るものゝ如く、選擧法のあるを知る町村長が女と云ふ寬の手に懸りては前後を顧みず不正の金を懷にするのである、是れ女に關係あるものに犯罪者の多く又犯罪の動機が重に女にある所以なり。

□一大廓淸を施せり

大正三年我檢事局が非違を擧ぐるに集注したる努力は實に峻烈を極め、或る役場の如きは村長、助役、收入役を同時に檢擧し、爲に行政機關の全滅したるものさへありたり、地方町村の模範を以て任せざるべからざる町村吏員にして猶且然り、其他のものに違犯者のある何ぞ怪むに足らんや。左れこそ一府にして一千名に近き違犯者を出せり、檢事局の此の峻烈なる檢擧は我選擧界に一大廓淸を施し、爲に爾後の選擧界は全く面目を一新し心ある人をして大に喜ばしめたり。

□再び元の腐敗に戻れり

然るに何ぞ料らん今次府縣會議員の改選は再び大正三年の腐敗に戻れり、是れ戰後世界人心の動搖に伴ひ選擧民の思想に變兆を來せる所以か、將た亦司直の方針一變せるに因れるか、何れにしても痛歎の至に堪へざるなり、聞くが如くんば今次府縣議員の改選に際し一候補者の費消せる金高は少きものにして五千圓、多きものは貳萬圓以上に及べりと、豈に愕かざるを得んや。物價騰貴の今日印刷費、人力車等に要したる金も少なからざれども、其總費額の七分迄は矢張運動者と選擧民の懷ろに收まり、而して其過半は女の手に渡つて居るのである、元來代議權を受くるものが選擧民に頭を下げ、哀願するのみならず、金を出して選擧して貰ふと云ふことの不合理なると同時に、大切なる己れの權利を委任するに金を取るなどゝは全く主客轉倒と云はざるべからず。而かも一府縣會議員の職を獲得せんが爲め何萬圓と云ふ金を投ずるにあらざれば當選を期する能はざるを見るに及び、我選擧界の腐敗が其極に達し居るを知るべし、此の時に當り一般國民に對し精神的一大廓淸を圖ると共に、法律的廓淸を施すにあらざれば遂に救濟する道なきに至るを保すべからず。



伏魔殿吉原驅黴院の暴露（一）

――殘虐なる此事實を如何

驅黴院看護婦　田口和子

田口女史が下の關驅黴院にありて、日誌を本會に寄せられたのは本年始めの事であつた。女史は廢業勸誘が同病院の問題となりて遂に東京に來たのであるが、木春以來吉原病院に奉職して仔細に、娼妓の狀態、病院警察、三業等の關係を研究して居られた。然るに先日新任の日本堤署長が三日間に亘り毎日千人づゝの娼妓を集めて訓示をなした其訓示なるものが、頗る奇怪至極なものであつたから、女史は直に席上に突立つて署長に質問ありと叫び、大に娼妓の人權の爲めに糾彈する處あらんとしたが、巡査や樓主連に遮られて果さず遂に大問題となつて左の如き痛快奇拔なる辭職願を出し、先月限り愈々同院を辭する事となつた。左は即ち女史自ら執筆したるその顚末書である、暫く下の關の記事を止めて、此の最も興味ある記事に代ゆる事とした。伏魔殿吉原病院の内情は號を逐ふて其正體を暴露するであらう。

田口和子日記の中より！

大正八年拾月卅一日(雨)金曜日！辭職願を提出して、もふ三日になるが未だに。。コマがつかぬ(是は入院患者が退院の符牒で即ち、コマとは治癒を意味す)自分ではならば平穏にと、家事の都合のみを理由としたるも、未だ一年も經て居らず證據物もなければ許されずとて、婦長樣のお手を通し舞ひ戻つたので、今は仕方無しと思ひ、理由を明らかに書して提出する事としたのでした。所が果して今度は忽ち辭令が下つた、辭令は下つたが此度は院長からだの事務からだの、意見のやうな脅喝の樣な色々なお話があつて中々返されない。果は私が病院内の事を書いた物を有つてゐないかと、荷物の檢査迄しやうとするのです。私は今度のことに就ては江湖に愬へて其公正なる判斷を仰ぎたいと思ふ。先づ私の出した理由書といふものは左の如きものでした。

辭職願理由書

(一)家事ノ都合ニ依リ候事又

(二)日日ニ不幸悲慘ナル境遇ニ在ツテ悶ヘ苦シミ、而カモ此深キ罪惡ノ渡世者ヲ目前見聞スルニ堪エズ、サレバ一日モ早ク辭職ヲナシ、公然斯ル同胞ヲ救濟致シ度候事又

(三)特ニ去ル拾月廿八日廿九日ニ亘リ檢査場ニ於テ聞シ日本堤警察署長殿ノ講演ニ付キ痛切ニ神ノ使命、時代思想ノ錯誤ヲ感ゼシメラレ申候事、又

(四)此ノマヽ病院ニ在ツテ職ヲ持續スルニ於テハ必ズヤ國法上ニ依レル自由廢業ノ神聖及各自ニ持テル其權利資格ヲ數ヘ、宣傳スルニ違ヒナシ、故ニ病院側ニ取リ或ハ面白カラヌ結果ヲ生ズルニ至ルヤモ知レズ之レ又懸念ニ堪ヘズ候事

右ノ次第ニ候ヘバ何卒速カニ御許可下サレ度願上候也

大正八年拾月卅一日

看護婦　田口カツ㊞

警視廳吉原病院御中

第一の家事の理由は說く必要がない、第二の理由は一々例を擧ぐれば、限り無き故私の最も近く感じたほんの一事を引かむ、それは拾月廿四日、秋雨降る金曜日午前十一時から午後三時迄の出來事でした。昨！廿三日の入院者中、揚屋町友喜樓吉田ナツ方の娼妓根本はる、妓名春人十八歲！と云ふ者があつた。豫てから少しは氣が變てあつたと云ふが、入院して夕迄と云ふもの夜通し四號室に在つて一睡もせず、アチラの金網窓に倚りすがつて「バカホ、、、」コチラの網窓に額を押しつけては「バカホ、、、去年の秋のわづらいにいつそ死んで了ふたら斯ふした歎きもあるまゐものを……」等云つてるかと思へば多勢寢てる人の枕元をスウツ〱と行つては戻り戻つては又行くと云ふ風で、此の爲め皆まで眠られなかつたと云ふ事！病院では無論附添人を請求したのであるが、誰しもよき心持はせぬかして夕迄遲く來て今朝は早く御飯にと歸つたまゝ出て來られぬ、其内は私等の受持場なる内科も始まり、他の患者をすましてから命のまゝに、根本はるを連れ來つた先生が懇切に、身の上や希望(如何して貰ひたい云ふ事)！等尋れ給ふに對し

『どうともよろしい樣に……』とクルリ

倚子を廻し先生の方へ背を向けて、小聲にアッうるさいつ〳〵」と顔をしかめてるが先生は猶ほ
『だつて君の事ぢやあないか……斷りたけりやあ私の方で直ぐに樓主を呼んで休業する様に計つてやるし病院がよければ病院に……』
とすかしつなだめつ氣を引き診れど、やつぱり『ウルサイッ〳〵』を連發する計り、それでも猶ほ懲りずにきけば、
『私は〳〵もふ犧牲になつたのでございます、面目がありません！ヘイこんな汚れた體になりまして！、私のことはもふみんなこの新聞に出て居ります、今は早や死ぬに死なれぬ吾が身のはかなさあ！』
芝居文句の様な事を云ひ出しさめざめ泣き出したのでした。先生や私等が机上の都新聞をひろげ
『どこにもあなたの事、書いてありやしませんよそんな事心配してはいけません……』
と云つても悲しい設、如何にこれを打ち消さむとしても狂者の特徴として、本人には事實もふ心のまゝが判然と書いてある様に眼に寫るのですから仕様がない
『じやあれえどんな事がかいてあつて！』ときけば
『それは云ふに云はれぬ深かあい事情があつて、私の寫眞はもうちやあんと愛子さんの身代りになつて、日本堤警察署に出て居て居ります、その羽織を着て私が揚屋町の友喜樓から現はれたんでございます、私は情けないです面目がありません……』
と何だか其の間に、介在した事情のある事は察しられるが全く、結まりのない言葉で捉へ所がないので、例の通り樓主を呼び出した、そして話をきくに
『彼の女は茨城縣那賀郡平石町根本タツと云ふ人の長女で父は此の五月に死亡し、後とに氣の付かなかつた多くの借財があつて、娼妓となる事を承知してやつて來たんです、店に出たのが七月十五日からで至極おとなしく客も相當についてたんですが、七日目でした客に出てゐて出來心でもありましたろふが、金を二圓許ら取りやがつたんですために客から苦情を申し込まれ腹が立つので、早速呼びだし引き立てゝ「きさまはうちの暖簾に傷付ける氣かつ！たつた今殘らずこゝに金を出せばよし、出されれば警察に届けてきさま懲役にやるぞ」と、云ひましたらやふやく出すにやあ出しましたが、又其翌晩これは客がよくてまあ五十錢位の金のことゝ云つて苦情と云ふんじやありませんでしたが持つてる筈のない金を勘定外にしまゐ込んだので、又やりあがつたんだなあと小つぴどく、あとの爲に云つてきかせた様なあんばいて！ヘイそれから、こつちどふもその氣が妙な事になりまして、今までと反對にもふ人の五人前も一人りてしやべる様になり、とりとめもない事を云ふので客はへる一方、いやもふやつかいな奴をつれて參りましたよ。だがたしかにあればスラを使つてやがりますよ……』
　尋常の人間を立派な氣違ひにさしておいて、厄介者をつれて來たもありやあしないと密に憤慨致しましたが、先生は
『話通りて病院においてゝも誰か附添ひがない事にはだめだから、一應あんたの家に引取つてどこか外休させる事にしたがいゝてしよう。本人とよく話し合つてれ』
と食事に行かれた其後てある病室にある患者を樓主の所へつれて行つて守をさせるがいゝと仰るので、食事中の患者を待ち留守中の保護を依頼の爲め、内科室に煙草をスパリ〳〵呑んでる樓主の所へつれて行つた所獰猛な彼の主人は恐る〳〵首うなだれて例の長倚子の片隅へ腰かける、彼の女を見るや否やまるてゴリラ見たいな相形して、ヂリ〳〵寄つて來て
『オイツ何だつて人へそんなに迷惑かけるんだよ、エツ……オイツ何が恨みてきさまあそんな眞似をしやがるんだい……』
と云ふが早いか！ヒシャリッ〳〵〳〵續け様に兩の頬をイヤと云ふ程打つたのです。患者はそれを逃げ様ともせず、打つてかへそふともせずじつとうなだれて『濟みません……』と云つてる、あんなに云つてるんだからもふやめるだろふと仕かけの薬札を揃へて居る又ヒシリッ……
　こんどは大きな握り拳て、打伏した額をいやと云ふ程打ち上げて、後ろの寄板へ反動を起す程の亂暴な折監。斯ふ云ふ風で此の人（患者）は狂人ひにされちやつたんだなあ！よしつ！もふ默ちやゐられないから……こんど手を出したら！と思つてる矢先き、A様（同勤看護婦）もゐたたまらずなつたと見へ
『私こゝに居るからあなた薬局に行く次手に先生に、知らせて來て頂戴よ……』と小聲！私も！そふだつ！こんなゴリラへ、はむかつてゆくより先生方みんなへ早く告げてやりましょう』
と心づき！飛ぶが如くにしてドアを明け、階段下りて薬局にいらしやる先生方に告げ知らせ「早く行つて下さいッ……」と、願つたのですすると、常より私等と同じく患者の立ち場へよく同情してるN先生等！眞つ先きにかけてお出て下さつた、からしてまあ！漸やく彼の女が肉體の苦難は助かつた、斯ふして肉體の苦難は助かつたがそれはほんの一時……て、あゝ今暫時の後ちには再び恐ろしいゴリラの住家へと引き立てられ又今にも倍して如何な責め折監をされるのやら！と！思へば思ふ程！、私は〳〵返したくない！いつぞ自由廢業をさしてやろふ！、知られば敎へてと、感じ少しても本性があつて警察へ出た時、言葉が通じれば種々に室へ行つて話して見たが、悲しいかな更らに意を解してくれぬ、只取り止めなき
『私は上市の泉町二丁目伊勢静呉服店え小學校を出ると間もなく奉公に上りました、その時にこしらへた着物もまだあります、ヘイツ卽ち其私が今のあさましい此私てあります、あッ私が男子であれば立派に戰爭へ出て國家に盡すんてす！けれども私はきつと、思ひを通しますどこでも飛んて出る考へてす』
　等……云ふので
『どんな思ひを通すの！あんなにぶたれたんだから、日本堤署へ行つてとゞけるといゝはれネ』と云へば
『それはあなたがたには云はれません、私さへがまんして居ればこのことは濟みます、丁度鍋島の猫騒動と同じ譯てあります、親ならぬ親を親と呼べとはそりやあ、あんまり道欲な……他に氣は無いまつばかり』
と終にはやはり芝居文句何たか、斷れ〳〵の此短かい言葉に、深かい眞理を味へとても云ふ樣！（つゞく）

最近の廓清運動

□本部理事會

十月四日午後六時半、本部に於て、廓清會の目的を擴張することにつき、理事會を開く。島田會長先づ本日集會を求めたる理由を述べ、勞働問題の急激なる發展に伴れて、弊害も甚しく、短縮せられたる時間と値上せられたる賃金を以て、酒色に耽溺するに過ぎざるは、勞働問題それ自身の發達を阻害し、且つ社會の風教を紊る重大問題なるが故に、禁酒問題を結びつけ、教化運動を起すの必要あり、また朝鮮の近情も到底我等の袖手傍觀を許さゞる有樣にあり、其他一切我等の理想を實現せんには、政治を廓清するの必要あり、それには普通選擧による外道なし、故に以上の諸問題をも會則を改正して我等の論題となし、健全なる思想を鼓吹するとしては如何、とて理事會の協議を乞ひ、從來の會則第二條　本會の目的は公娼制度を廢止し男女間に貞潔の德操を獎むるにあり。といふを改め、公娼制度を廢止し、男女間の道德を高め、且つ各種の方面より社會を廓清するにあり。といふことに改むる事となつた。併し男女問題以外の問題に對しては、特別なる必要に迫まらるゝ場合の外實際運動には手を觸れず、思想運動に止まり、勞働問題又は選擧權問題の理想を說き、以て文化の向上人世の福祉を增進せしむべしといふ事となり其他會費の改定運動方法を協議し、更に之を評議會員の協贊を求むる事として、散會、出席者、島田三郎、安部磯雄、山室軍平、內ヶ崎作三郎、宮田修、小松武治、油谷治郎七、山本邦之助、松宮彌平、益富政助、及び矢島楫子代理として久布白落實、守屋東、伊藤富士雄、伊藤秀吉。

□本部評議員會

十月十六日理事會決議に基き午後七時本部に於て評議員會を開く。大阪より林歌子、群馬より德江亥之助、新潟より長田時行氏等も來會せらる。先づ島田會長開會の趣旨を述べ、會則第二條に就て協議を乞ひ、理事會決議通り可決確定。同第三條に於ては其の內容を『男女問題、禁酒問題、勞働問題、丁年選擧權問題、朝鮮問題、人種問題、國際問題等を研究して健全なる思想を鼓吹す』と改めたる理事會の決議を否決し、從來男女道德を中心に集まりたる本會員に、全く別個の感じを與ふる恐れあれば、會則の表面に列記するは面白からずとて之を削除し、別項會則記載の通り改め、會費を正會員年額二圓とし、贊助會員を改めて維持會員と改稱し、之を甲乙に分ち甲は年六圓以上、乙種維持會員は從來通り年三圓以上とし、雜誌を從來三十二頁位なりしを四十八頁以上とする事、其他を決定協議して散會した。

□能代支部發會

九月六日淺野吉十郎氏の熱心なる盡力により一擧百餘名の會員を得、東北の一角に遂に最も勇ましき呱々の聲を擧げて能代支部は生れ出でた。東北日本の風教はやがて此地から廓清の廓清されるであらう。吾人は其健全なる發達を望んで止まぬ。左は同地新聞の報道である。

□支部發會演說會

既報の如く坂本定德淺野吉十郎氏等主唱となり、當町有力者十六名蹶起運動を起し、之れに青年團幹部大擧應援せる廓清會能代支部發會式は、去る六日夜七時半高等小學校に於て開催せられ、雨を徒して來會せる聽衆定刻既に八百餘名、滿堂立錐の餘地無く場外に在る者二百餘名、尙ほ空しく歸れる者多數なり、會場には紅白の幕を張り、萬國旗を交叉し、場內既に風雨將に到らんとして風樓に滿つの概あり、定刻坂本定德氏開會を宣し、今回の奮起せる所以を述べ郷土の風紀革新を絕叫し、續て座長に推森延氏推され座長は左記の如く理事な指名せり、此に於て會の成立を告げたれば來賓演說として青年團評議員を代表して小林德太郎氏、山本佛教會を代表して和田龍造氏共に廓清會の成立を祝し、次に救世軍大佐山室軍平氏登壇し、社會廓清問題より、人生問題に及び引續き適確論理整然たる白熱の大雄辨！　實に山室氏の崇高なる人格と其の熱烈火を此くが如き信念の叫びは滿堂の聽衆に多大の感動を與へたり、終て淺野吉十郎氏は本部より即ち安部磯雄、矢島楫子女史の祝電を朗讀せり、松野一也氏は閉會の辭を述べ、無事拾時過大盛會裡に散會せり、因に本運動に秋田市より出席せる同志もあり、入會續々あり。

支部役員の氏名左の如し

役職	氏名
常任幹事（代表者）	西村非右衛門
會計理事	淺野吉十郎
理事	坂本定德
同	熊谷直秀
同	和田龍造
同	松野一也
同	安濃友治
同	百瀨正賢

□能代支部演說會

十月十七日能代支部は、活動第一回の火蓋を切つた。辨士は官民共同佛耶一致の最も美しき誇るべき理想的の集會であつた。左は同地新聞の所報である、

既報の如く廓清會支部の活動の第一聲は、去る十七日夜七時より高等小學校に於て發げられ、名士として西村非右衛門氏、和田龍造氏、松野一也氏、百瀨正賢氏、齋藤校長、千葉判事等來會者百餘名滿堂の盛況を極めたり、定刻淺野理事起つて開會を宣し、今回の奮然蹶起せる所以を論及す、續て『汝の家庭を愛せよ』と題し百瀨正賢氏家庭の本質より論んし、近來憂ふべき現象として說れる半獸主義の如き思想が家庭に入ります、家庭の神聖と平和を害しあるは概嘆に堪へず、願くば先づ家庭內に男女貞操の觀念を高め、一夫一婦の大倫により家庭の純潔とを絕叫す『自己の廓清と革新』と題し松野一也氏は、廓清會の使命より、自己の人格修養は社會改造の根底なりと唱破せり『婦人問題と勞働問題』と題し和田龍造氏は、最近の世界より論理整然と約四十分に渉りて熱辯を振ひ、最後に勞資協調の急務を提唱す『社會廓清の根本問題』と題し千葉判事は責任觀念より社會廓清の焦點に附き論んじ、大いに國民の覺醒を促し、時九時演說會を閉會す、協議會に移り西村氏座長席に着き、支部會則を多少の字句を修正し、滿場一致を以て理事會の提案を可決し、今後の活動方針に附申合せり。

大正八年十一月十日印刷（每月一回十日發行）
大正八年十一月十日發行（一部定價金拾八錢）

編輯兼發行人 神田區今川小路一丁目三番地 伊藤秀吉
印刷人 小石川區大塚窪町一番地 久保民生
印刷所 本郷區眞砂町三十六番地 日東印刷株式會社
發行所 神田區表猿樂町十番地 廓清會發行所
電話神田三八〇一番
振替東京二七〇七二番

5—384

定價壹冊金拾八錢